

社会福祉科（昼間課程）

2025 年度 シラバス目次

科目名	項
医学概論	2
心理学と心理的支援	6
社会学と社会システム	9
社会福祉の原理と政策	12
社会福祉調査の基礎	14
ソーシャルワークの基盤と専門職	16
ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）	19
ソーシャルワークの理論と方法	21
ソーシャルワークの理論と方法（専門）	24
地域福祉と包括的支援体制	27
福祉サービスの組織と経営	29
社会保障	30
高齢者福祉	34
障害者福祉	37
児童・家庭福祉	40
貧困に対する支援	42
保健医療と福祉	44
権利擁護を支える法制度	47
刑事司法と福祉	59
ソーシャルワーク演習	51

[illegible]

学科・年次	社会福祉科（昼間課程）・1 学年
科目名	医学概論
担当者	石黒智美
単位数（時間数）	1 単位（30 時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	『最新・社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 1 医学概論』 中央法規出版 2021 年 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集

授業概要と目的
- 心身機能と身体構造ならびに様々な疾病や障害の概要について、人間の成長と発達および日常生活での関連を踏まえて理解する。 - 国際生活機能分類の基本的な考え方と内容を知る。 - リハビリテーションに関わる支援の概要を学ぶ。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	「ライフステージにおける心身の変化と健康課題」 - ライフステージにおける心身の変化について理解する - 心身の加齢・老化について理解する。 - ライフステージ別の健康課題について理解する	「ライフステージにおける心身の特徴」 - 乳幼児の特徴について、体重と身長の変遷のスピードの違いを説明できる。 - 原始反射の種類について説明できる。 - エリクソンの発達課題について説明できる。 - 加齢と老化の違いについて説明できる。	石黒
2	通年	「健康および疾病の捉え方」 - 臓器の加齢変化について理解する。 - 老年症候群について理解する。 - 健康と疾病の概念について理解する。 - 国際生活機能分類（ICF）について理解する。	「健康および疾病の概念・ICF」 - 臓器の加齢変化について顕著なものを説明できる。 - 生理的老化と病的老化の違いについて説明できる。 - 健康寿命について説明できる。 - ICIDH と ICF の違いについて説明することができる。	石黒
3	通年	「身体構造と心身機能①」 人体部位の名称について理解する。	「骨格系、筋系、循環器系、消化器系、呼吸器系の解剖・生理」 骨の名称が言え、その位置について説明できる。	石黒

		・骨格系、筋系、循環器系、消化器系、呼吸器系の解剖・生理について理解する。	・体循環、肺循環について説明できる。 ・肝臓の機能を3つ述べることができる。 ・肺と気管支の構造上の左右差について説明できる。	
4	通年	「心身の機能と身体構造②」 「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程」 ・泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系、感覚器系の解剖・生理について理解する。 ・疾病の発生病因と成立機序について理解する。	「泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系、感覚器系の解剖・生理」 ・腎臓の位置が説明できる。 ・女性生殖器、男性生殖器の機能を述べることができる。 ・フィードバック機構について例をあげて説明ができる。 ・中枢神経と末梢神経の違いについて説明できる。 ・視覚器の構造について、眼球の水平断面図を見ながら、説明ができる。 ・皮膚の構造の3つの層について述べることができる。 「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程」 ・メタボリック・シンドロームの診断基準について説明ができる。	石黒
5	通年	「免疫のしくみ」 ・免疫について理解できる。 「リハビリテーションの概要と範囲」 ・リハビリテーションの定義・目的を理解する。 ・リハビリテーションの対象・方法を理解する。	「免疫のしくみ」 ・免疫のしくみについて説明ができる。 「リハビリテーションの概要」 ・リハビリテーションの定義について説明できる。 ・リハビリテーションの4つの側面について述べることができる。 ・ADL、IADL、QOLについて説明できる。 ・リハビリテーションに関わる専門職をあげ、その役割について説明できる。 ・包括的リハビリテーションについて説明できる。	石黒
6	通年	「疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション①」 ・感染症、高次脳機能障害について理解する。	「感染症、高次脳機能障害」 ・感染症発症の三大要因について説明できる。 ・ノロウイルス感染症について説明でき、有効とされている消毒液について述べることができる。	石黒

			・日和見感染症について説明ができる。 ・院内、施設内感染対策について説明できる。 ・高次脳機能障害の症状について、3つ述べるができる。	
7	通年	「疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション②」 ・認知症、神経難病について理解する。	「認知症、神経難病」 ・認知症の定義について説明できる。 ・認知症の検査について、代表的なものをあげ、説明できる。 ・アルツハイマー病と脳血管性認知症との違いについて説明できる。 ・パーキンソン病の三大兆候について、述べるができる。	石黒
8	通年	「疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション③」 ・脳機能疾患、脳血管疾患、心疾患について理解する。	「脳機能疾患、脳血管疾患、心疾患」 ・脳血栓と脳塞栓の発症の要因の違いについて説明できる。 ・くも膜下出血と脳出血の違いについて説明できる。 ・狭心症と心筋梗塞の症状の違いについて説明ができる。 ・不整脈の種類について説明できる。	石黒
9	通年	「疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション④」 ・内分泌・代謝疾患、呼吸器疾患、腎疾患について理解する。	「内分泌・代謝疾患、呼吸器疾患、腎疾患」 ・1型糖尿病とⅡ型糖尿病の違いについて説明できる。 ・糖尿病の慢性合併症を3つあげることができる。 ・甲状腺機能亢進症と甲状腺機能低下症の症状の違いについて述べるができる。 ・COPDの定義について説明できる。 ・肺がんの種類と、できやすい部位について説明ができる。 ・慢性腎臓病（CKD）の定義を述べるができる。	石黒
10	通年	「疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション⑤」	「泌尿器疾患、消化器・肝胆膵疾患、骨・関節の疾患」	石黒

		・泌尿器疾患、消化器・肝胆膵疾患、骨・関節の疾患について理解する	・尿失禁のタイプを述べ、その特徴を説明できる。 ・ウイルス性肝炎の種類をあげ、それぞれの特徴を説明できる ・骨粗鬆症により骨折しやすい部位をあげることができる。 ・ロコモティブシンドロームについて説明できる。	
11	通年	「疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション⑥」 ・血液・免疫・アレルギー疾患、眼科疾患、視覚障害、耳鼻咽喉疾患、聴覚障害、平衡機能障害について理解する	「血液・免疫・アレルギー疾患、眼科疾患、視覚障害、耳鼻咽喉疾患、聴覚障害、平衡機能障害」 ・主な貧血の種類を3つ述べることができる。 ・輪状暗点、求心性視野狭窄、中心暗点のそれぞれの違いが説明できる。 ・伝音難聴と感音難聴の違いが説明できる。 ・良性発作性頭位めまい症の病状について述べることができる。	石黒
12	通年	「疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション⑦」 ・口腔疾患、婦人科・産科、精神疾患について理解する	「口腔疾患、婦人科・産科、精神疾患」 ・我が国の歯科保健の状況について説明できる。 ・妊娠の診断、妊婦健診、分娩までの一連の流れについて説明できる。 ・精神保健福祉法に定められた任意入院、医療保護入院、措置入院の制度を説明できる。 ・統合失調症の陽性症状について説明することができる。	石黒
13	通年	「疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション⑧」 ・発達障害、小児科疾患、肢体不自由、知的障害、先天性疾患について理解する	「発達障害、小児科疾患、肢体不自由、知的障害、先天性疾患」 ・自閉症スペクトラム症の主な症状について、説明することができる。 ・脳性まひのタイプについて説明できる。 ・知的障害の原因について、1つ述べることができる。	石黒

14	通年	「疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション⑨」 「公衆衛生」「まとめ」 ・高齢者に多い疾患、生活習慣病、内部障害について理解する。 ・悪性腫瘍と緩和ケアについて理解する。 公衆衛生の概要を理解する。 健康増進と保健医療対策について理解する。	「高齢者に多い疾患、生活習慣病、内部障害、悪性腫瘍と緩和ケア」 ・身体障害者福祉法での内部障害の種類について述べることができる。 ・WHO の健康の定義について、説明できる。 ・予防医学について、一次予防、二次予防、三時予防の概念を説明できる。 ・健康の社会的決定要因について説明できる。	石黒
15	通年	「科目修了試験と解説」 ・科目全体の理解度について確認する。	「科目のまとめ、理解度の確認」 ・科目修了試験にて 6 割は正答することができる。 ・間違えた問題についても、解説を聞くことにより、理解することができる。	石黒
成績評価方法		100 点満点（科目試験）		
準備学習など		授業中に配布する「一問一答プリント」を、家庭でも復習すること。		
留意事項		特になし		

学科・年次	社会福祉科昼間課程 1 学年
科目名	心理学と心理的支援
担当者	崎山 真里
単位数（時間数）	1 単位(30 時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	『最新・社会福祉養成講座 2 心理学と心理的支援』 一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟（編）中央法規出版

授業概要と目的	
・心理学理論による人の理解とその技法の基礎について理解する。 ・人の成長・発達と心理との関係について理解する。 ・日常生活と心の健康との関係について理解する。 ・心理的支援の方法と実際について理解する。 ・相談援助に必要な心理学的知識について理解する。	

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	・人を心理学的に理解することについて知る。 ・この講義で何を学ぶのか知る。	・この講義でどのようなことを学ぶのかを理解し、目的意識をもってこの後の授業に臨めるようにする。	崎山
2	後期	・人の感覚・知覚・認知について学ぶ。 ・人の脳の構造について知る。 ・心と脳の関係について知る。	・人がどのように視覚からの情報を取り入れているのかを理解する。 ・人の身体行動・精神活動にはどの能部位が使われているのかを理解する。	崎山
3	後期	・人や動物がどのような過程を経て学習したり、物事を記憶したりするのかについて知る。	・記憶の種類・物事を学習していく過程を学び、そのメカニズムについて理解する。	崎山
4	後期	・人が成長する時にどのように知能が発達するのかについて知る。 ・知能と創造性について学ぶ。 ・人格と性格について学ぶ。	・人の知能発達について理解する。 ・人の人格や性格について、理論的に理解する。	崎山
5	後期	・人が精神的・身体的に発達していく過程を学ぶ。 ・発達と心理の関係について学ぶ。	・発達の定義や、諸段階説について理解する。	崎山
6	後期	・発達障害や発達検査について知り、それらについて学ぶ。	・発達障害について学び、その特性を知り、正しい理解へと繋げる。 ・心理検査の概要について知り、その特徴や特性などについて知る。	崎山
7	後期	・人の情動や情緒について学際的に学ぶ。 ・感情にまつわる諸症状や、諸問題について知る。	・情動や情緒について理論的に理解する。 ・感情などに関わる諸症状や現代における諸問題について知り、理解を深める。	崎山

8	後期	・人がいることで発生する環境・集団心理について学ぶ。 ・相手を理解する・自分のことを相手に話すということについて知る。	・集団になることで起こりうる心理的現象について知り、そのメカニズムについて理解する。 ・人を理解すること・自分のことを話すことについて理論的に学ぶ。	崎山
9	後期	・欲求や動機づけとその行動を理論的に学ぶ。 ・原因帰属について学ぶ。	・人がどのような欲求や動機を持って行動する傾向にあるのかを理解する。 ・原因帰属にはどのような種類があるのかについて学び、理解する。	崎山
10	後期	・コミュニケーション技法について学ぶ	・普段何気なく取っているコミュニケーションについて、対人援助職として必要な技法を知り、理解を深める。	崎山
11	後期	・心理療法の概要と実際について学ぶ。 ・カウンセリングの概念と範囲について学ぶ。	・心理療法について知る。 ・面接や見立てで重要とされていることについて理解し、「どのように面接を進行するのか」や、「どのように見立てていくのか」について理解する。	崎山
12	後期	・心理的支援の方法と実際について知る。 ・「傾聴」について体験する。	・実際に心理療法について触れ、どのように行われているのかを体験し、理解する。 ・実際に体験し、傾聴や見立てについてどのような知識が必要とされるか理解する。	崎山
13	後期	・ホメオスタシスのメカニズムについて知る。 ・日常生活と心の健康について知る。	・ホメオスタシスについて知る。 ・ストレスが身体に及ぼす影響を理解し、対人援助職としてセルフマネジメントができるように理解を深める。	崎山
14	後期	・ストレス反応が生じさせる性格特性について知る。 ・ストレスラーに関連する心理的反応について知る。	・ストレス反応が生じさせる性格特性について理解する。 ・ストレスラーに関連する心理的反応について理解を深める。	崎山
15	後期	・科目認定試験実施 ・喪失について、学術的知識について知る。	・科目試験を実施し、学習定着度を確認する。 ・喪失体験について、学術的知識について理解を深める。	崎山
成績評価方法		100 点満点（リアクションペーパー30 点＋科目試験 70 点） 科目試験は、論述 5 題（50 点）＋多肢選択問題 20 問（20 点）で構成されているものとする。		
準備学習など		予め事項のテキストを読み、どのようなことを学ぶのかについて目を通してからの受講が望ましい。		
留意事項		適宜映像資料やロールプレイなどを用いて学びを深められるような授業を実施予定。		

学科・年次	社会福祉科（昼間課程）1 学年
科目名	社会学と社会システム
担当者	山口 宏
単位数（時間数）	1 単位（30 時間）
学習方法	講義と1 回のみグループワーク
教科書・参考書	『最新・社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座3 社会学と社会システム』中央法規出版

授業概要と目的
家族や貧困、都市問題など、社会福祉士としての業務に携わっていくうえで背景的に必要なとなるような、さまざまな社会問題への理解を深める。また同時に、自明とされている社会の常識を疑い、多様な価値観を受容し、多角的に思考できる感覚を身につける。そのうえで国家試験への実践的対応力を身につける。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「社会学ガイダンス」 社会学がどういうものか、概略を知る。	「常識を疑う視角を感じ取る」 ・昔の出来事・事件をいくつか見ていくなかで、価値観の違いを説明できる。 「現代のつながりのかたちをとらえる」 ・これから具体的テーマを考えていくための予備知識として、地域のつながりを作る新たな取り組みを説明できる。	山口宏
2	前期	「格差・貧困と社会的排除」 格差・貧困に関する基本用語・理論を理解し、貧困の多面性も理解する。	「格差・貧困の多様な側面の理解」 ・貧困が健康やコミュニケーション、孤立など様々な面に関わってくることを理解し、自分なりの見解を表現できる。 ・それに対する様々な取り組みを知り、その可能性について表現できるようにする。	山口宏
3	前期	「地域と都市の諸問題」 地域・都市をめぐる学説と、地域政策の歴史を理解する。	「地域・都市社会学の学説」 ・日本の地域社会学史とシカゴ学派の内容が説明できる。 「地域政策と用語の理解」 ・日本の戦後地域政策の流れと町内会、地域をめぐる時事用語を理解する。	山口宏
4	前期	「家族のとらえ方と世代」	「家族の用語・学説・データの理解」	山口宏

		家族についての用語・学説、現在の変化、およびライフサイクル/ライフコースの見方を理解する。	・家族の分類・形態の諸概念・理論を理解し、統計からも家族の変化をとらえる。 「世代変化をとらえる図式を理解」 ・ライフサイクルとライフコースの違いと意義を理解する。	
5	前期	「ジェンダーと差別」 ジェンダー論の展開と現在の諸問題を理解し、そこから多様な差別をとらえる視点へとつなげていく。	「ジェンダー論の歴史と諸問題の理解」 ・フェミニズムの時代区分などの歴史と、現在の諸問題を理解する。 「差別のとらえ方の理解」 ・ジェンダーや性的マイノリティも含め、様々な差別をとらえる枠組みを理解する。	山口宏
6	前期	「行為と役割の理論」 自己や役割をめぐる諸概念を理解する。	「役割とコミュニケーションの理解」 ・自己の形成に関するミードなどの学説を説明できる。 ・ゴフマンなどのコミュニケーションの理論を理解し、それを日常場面に重ねて説明できる。	山口宏
7	前期	「労働・健康をめぐる諸問題」 労働問題の状況と、自殺やその他依存症の問題も合わせて理解する	「労働問題の理解」 ・労働に関する諸制度と組合、格差問題を理解する。 「健康に関する諸問題の理解」 - 自殺の動向や依存症への見方、ラベリング論などの逸脱理論を理解する。	山口宏
8	前期	「集団と組織」 集団分類と組織の理論を理解する。	「集団分類の理解」 ・テンニースらの集団分類を理解し、具体例に応用できる。 「組織の諸形態の理解」 - 官僚制の特徴と、そのマイナス面を理解できる。	山口宏
9	前期	「環境問題・災害」 公害・環境問題の歴史と現在、および災害と社会について理解する。	「公害と環境問題」 ・公害の歴史と複雑さ、近年の環境問題の広がり対策を理解する。 「災害と社会」 ・被災体験や災害時の集団の動き、支援のあり方などについて理解する。	山口宏

10	前期	「グローバル化と外国人」 グローバル化にともなう格差などの問題と、日本のなかでの外国人受け入れの状況を理解する。	「グローバル化の諸側面」 ・グローバル化がもたらす世界規模の格差や制度の問題を理解する。 「日本のなかでの外国人」 ・在留外国人の内訳と生活・労働環境の問題、および難民をめぐる状況を理解する。	山口宏
11	前期	「大衆社会・消費社会」 大衆社会・消費社会をめぐる学説を押さえて、現在に重ねて理解する。	「大衆社会の特徴と理論」 ・大衆社会の不安定さについての理論を理解し、現在に重ねて説明できる。 「消費社会の歴史と理論」 ・大量消費社会の発展と変容を理解する。	山口宏
12	前期	「社会政策・福祉国家」 新自由主義などの流れと、福祉国家を基礎づける理論を理解し、優性思想の歴史もそこに重ねて理解する。	「社会政策の理念と福祉国家」 自己責任化の流れにも対照しながら、福祉国家の歴史と理論を理解する。 「国家の生命管理と優性思想」 生を管理する国家という毒面に重ねて、優性思想の歴史と今を理解する。	山口宏
13	前期	「学説史・理論」 社会学の古典的な学説を、これまでの具体的内容を踏まえて、整理・理解する。	「学説史・理論の理解」 ・ヴェーバー・デュルケムに始まる古典学説やシステム論など社会学の理論を、これまで扱った内容にも重ねながら、抽象概念も合わせて理解する。	山口宏
14	前期	「グループワーク」	・これまで扱ったテーマを絡めながら、10個程度の問題に対して、話し合っただれぞれ答えを導き出す。	山口宏
15	前期	「まとめと試験」	・試験を通して、今までの理解を深める。	山口宏
成績評価方法		授業参加度 20 点 科目試験 80 点		
準備学習など		テーマに合わせて、教科書に目を通しておいください。		

学科・年次	社会福祉科昼間課程 1 学年
科目名	社会福祉の原理と政策
担当者	鈴木雄太
単位数（時間数）	2 単位(60 時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	『最新 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座 4 社会福祉の原理と政策』 中央法規出版 2021 年 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集

授業概要と目的
・社会問題と社会構造の関係の視点から、現代の社会問題について理解する。 ・福祉国家がどのような歴史的背景のなかで生まれ、どのように形成されてきたのかについて理解する。 ・福祉や福祉政策の意義や性格について、市場の論理との対比や政治哲学の観点から理解する。 ・福祉政策の理念・主体・手法について、関連領域や国際比較を関連させて理解する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	本科目の特性を理解する	・本科目の位置と概要を理解する ・本科目の国家試験の内容を理解する	鈴木
2	通年	福祉政策の動向と課題を知る。	・社会福祉の視点を知る。 ・社会福祉の構造を知る。	鈴木
3	通年	福祉政策の動向と課題を知る。	・社会福祉を取り巻く環境を知る。 ・現代社会の福祉課題を知る。	鈴木
4	通年	福祉政策の動向と課題を知る。	・社会福祉の法を知る。 ・社会福祉行政の仕組みを知る。	鈴木
5	通年	福祉政策の動向と課題を知る。	・社会福祉事業を知る。 ・福祉サービスの利用方法を知る。	鈴木
6	通年	福祉政策の動向と課題を知る。	・社会保障の基本を知る。 ・社会保険の仕組みを知る。	鈴木
7	通年	福祉政策の動向と課題を知る。	・社会福祉法の概要を知る(1)	鈴木
8	通年	福祉政策の動向と課題を知る。	・社会福祉法の概要を知る(2)	鈴木
9	通年	日本の社会福祉の歴史的展開を知る。	・日本における発達過程「明治以前～1950年代」を知る。	鈴木
10	通年	日本の社会福祉の歴史的展開を知る。	・日本における発達過程「1960年代～2010年代」を知る。	鈴木

1 1	通年	序盤(第1講～第10講)の振り返り	・前半に学習したことを整理し、自身の学習の振り返りの機会を得る。	鈴木
1 2	通年	福祉政策の動向と課題を知る	・SDGsとは何かを知る。 ・SDGsの達成状況と課題を知る。	鈴木
1 3	通年	福祉政策の動向と課題を知る	・現代社会における福祉ニーズを知る。 ・高齢者支援に必要な視点に触れる。	鈴木
1 4	通年	欧米の社会福祉の歴史的展開を知る。	・イギリスにおける発達過程「中世封建社会～19世紀後半」を知る。	鈴木
1 5	通年	欧米の社会福祉の歴史的展開を知る。	・イギリスにおける発達過程「貧困認識の転換」と「現代社会と福祉制度」を知る。	鈴木
1 6	通年	欧米の社会福祉の歴史的展開を知る。	・アメリカにおける発達過程「独立前後～第2次世界大戦後」を知る。	鈴木
1 7	通年	社会福祉の原理、理論、思想、哲学を知る。	・「福祉の思想と哲学」を知る。 ・「社会福祉の理論形成」を知る。	鈴木
1 8	通年	社会福祉の原理、理論、思想、哲学を知る。	・「社会福祉の論点」を知る。	鈴木
1 9	通年	社会福祉の原理、理論、思想、哲学を知る。	・「社会福祉の対象とニーズ」を知る。	鈴木
2 0	通年	中盤(第11講～第18講)の振り返り	・中盤に学習したことを整理し、自身の学習の振り返りの機会を得る。	鈴木
2 1	通年	社会問題と社会構造	・現代社会における新しい社会的リスクについて知る	鈴木
2 2	通年	福祉政策の基本的視点を知る。	・「福祉レジーム」、「第三の道」、「コミュニティアニズム」を知る。	鈴木
2 3	通年	福祉政策におけるニーズと資源を知る。	・福祉政策におけるニーズの種類と把握を知る。	鈴木
2 4	通年	福祉政策の構成要素と過程を知る。	・福祉政策の構成要素を知る。 ・日本における制度展開を知る。	鈴木
2 5	通年	福祉政策の構成要素と過程を知る。	・福祉政策の手法、策定過程、評価を知る。	鈴木
2 6	通年	福祉サービスの供給主体と利用、供給過程を知る。	・福祉サービスの供給主体を知る。	鈴木
2 7	通年	福祉サービスの供給主体と利用、供給過程を知る。	・福祉サービスの利用過程を知る。 ・福祉サービスの供給過程を知る。	鈴木
2 8	通年	終盤(第20講～第26講)の振り返り	・終盤に学習したことを整理し、自身の学習の振り返りの機会を得る。	鈴木
2 9	通年	日本の福祉関連政策を知る。	・過去の国家試験における出題をもとに、福祉関連政策を知る。	鈴木

30	通年	科目試験とふりかえり		鈴木
成績評価方法		・序盤、中盤、終盤の振り返り（30％） ・科目試験（70％）		
準備学習など		理論・政策・歴史といった内容が中心であり、要点をつかみづらい科目です。他の科目と並行した学びを意識しながら、少しずつ学習を進めてください。 テキスト、参考書等の内容だけでなく、社会問題等にも関心を向けられると良いです。		
留意事項				

学科・年次	社会福祉科昼間課程 1 学年
科目名	社会福祉調査の基礎
担当者	石橋康正
単位数（時間数）	1 単位(30 時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	『最新・社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 5 社会福祉調査の基礎』 中央法規出版 2021 年 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集

授業概要と目的
ソーシャルワークの実践を支える社会福祉調査の基礎的な知識と技法の修得を目的とする。社会福祉における社会調査の意義、目的、対象等の基礎的知識を理解し、統計法および調査における倫理的配慮や個人情報保護といった重要事項を確認したうえで、量的調査と質的調査の考え方・手法を重点的に身につける。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	オリエンテーション ・社会福祉調査の意義と目的を把握する	・社会科学における社会調査の位置づけを理解する ・ソーシャルワークと社会福祉調査との関係を説明できる	石橋

2	後期	社会福祉と社会調査 ・社会調査の歴史を福祉との関わりから読み解く 倫理と個人情報保護	・社会調査の歴史のなかに社会福祉の発展を位置づけながら説明できる ・統計法の目的と仕組みを理解する ・調査における倫理的配慮と個人情報保護の要点を理解する	石橋
3	後期	社会福祉調査のデザイン ・理論・実践・調査の関係を理解する	・社会福祉調査のプロセス（目的・対象、標本抽出、データ収集・分析）の概略を説明できる	石橋
4	後期	量的調査の方法（1） ・量的調査の特徴を理解する	・全数調査と標本調査の違いを説明できる ・代表性と標本誤差の考え方を理解する ・標本抽出の手法を説明できる	石橋
5	後期	量的調査の方法（2） ・質問紙の設計方法を理解する	・変数、仮説、尺度の考え方を理解する ・質問紙の作成における注意点を説明できる	石橋
6	後期	量的調査の方法（3） ・調査方法の特徴を理解する	・自計式調査と他計式調査の特徴を説明できる ・郵送法、訪問面接法等の調査方法のメリットとデメリットについて説明できる	石橋
7	後期	量的調査の方法（4） ・データ分析の基礎を理解する	・データの要約の基本を理解する ・代表値と散布度の違いを説明できる	石橋
8	後期	量的調査の方法（5） ・データの要約と記述統計の基本を理解する	・データの特徴に合わせてグラフ・表を選択できる ・因果関係と相関関係の違いを説明できる	石橋
9	後期	量的調査の方法（6） ・さまざまなデータ分析の手法を理解する	・量的データの関連性と分析法を理解する ・多変量解析の目的と特徴を説明できる	石橋
10	後期	質的調査の方法（1） ・質的調査の概要を把握する	・質的調査における問い、テーマ設定、仮説、調査手続きの流れを理解する	石橋
11	後期	質的調査の方法（2） ・質的調査のデータ収集法を理解する	・面接法と観察法の各特徴を説明できる ・調査の計画から実施までの手順を理解する	石橋
12	後期	質的調査の方法（3） ・質的データの記録方法を理解する	・データの収集と記録方法を説明できる ・資料収集における ICT の活用法を理解する	石橋
13	後期	質的調査の方法（4） ・質的データの分析法を理解する	・データのコーディングと分析手順を説明できる	石橋

14	後期	ソーシャルワークにおける評価 ・ソーシャルワークの評価方法を理解する	・マイクロ・メゾ・マクロレベルにおける実践の評価方法を理解する ・実践、プログラム、政策等の評価観点を説明できる	石橋
15	後期	まとめと科目試験 ・社会調査のまとめ	・社会福祉士にとっての社会調査の意義と重要性を説明できる	石橋
成績評価方法		100 点満点（小テスト 20 点+科目試験 80 点）		
準備学習など		特になし		
留意事項		特になし		

学科・年次	社会福祉科（昼間課程）1 学年
科目名	ソーシャルワークの基盤と専門職
担当者	檜垣道隆
単位数（時間数）	1 単位（30 時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	『最新・社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 11 ソーシャルワークの基盤と専門職[共通・社会専門]』 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 中央法規出版

授業概要と目的
本科目は 2 人の教員にて[共通][社会専門]と分けて授業を担当する。 共通：「ソーシャルワーク専門職の基盤形成に必要な基礎学習(国試対策含む)」 社会専門：「多様なソーシャルワーク事例をととした実践的学習」 として進めていく。 福祉ニーズの広範化と深刻化が進む現代社会において、人として生まれながらに持っている権利が守られ、地域で自らの意思決定により人生を送るために「総合的かつ包括的な相談援助」の担い手が求められている。 本講義は、ソーシャルワーク専門職の基盤形成に必要な知識および価値を中心に学び、「総合的かつ包括的な相談援助」の専門的機能を理解することを目的とする。 なお、社会福祉士として、福祉事業所等で現場経験のあるものが、その経験を活かし講義を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	「オリエンテーション」 ・科目の概要と目的を知る。 「第1章：SW 専門職の役割と意義」 ・ソーシャルワーク専門職とは何かを理解する	「オリエンテーション」 「SW とは、法的位置づけ、コンピテンシー」 ・資格の特性、根拠法と成立の背景などを説明できる ・ソーシャルワーカーに期待されていることを説明できる	檜垣
2	通年	「第2章：SW の概念」 ・ソーシャルワークの概念を理解する	「SW の概念と構成要素」 ・ソーシャルワーク専門職のグローバル定義についてイメージできる ・ソーシャルワークに関連する言葉の意味を説明できる	檜垣
3	通年	「第3章：SW の基盤となる考え方」 ・SW 実践における重要な考え方：『原理』を理解する	「SW の原理」 ・「社会正義」「人権尊重」「多様性尊重」の考え方について、自分なりにイメージできる	檜垣
4	通年	「第3章：SW の基盤となる考え方」 ・SW 実践における重要な考え方：『理念』を理解する	「SW の理念」 ・「ソーシャルワークの理念」について、自分なりにイメージできる	檜垣
5	通年	「第4章：SW の形成過程」 ・ソーシャルワークの形成過程：『SW 源流と基礎確立期』を理解する	「SW の源流と基礎確立期」 ・ソーシャルワークのはじまりについて、自分なりにイメージできる ・重要語句および人物を関連づけて認識することができる	檜垣
6	通年	「第4章：SW の形成過程」 ・ソーシャルワークの形成過程：『SW の発展期』を理解する。	「SW の発展期」 ・ソーシャルワークの発展期について、自分なりにイメージできる ・重要語句および人物を関連づけて認識することができる	檜垣
7	通年	「第4章：SW の形成過程」 ・ソーシャルワークの形成過程：『SW の展開期と統合化』を理解する。	「SW の展開期・統合化」 ・ソーシャルワークの展開期・統合化について、自分なりにイメージできる ・重要語句および人物を関連づけて認識することができる	檜垣

8	通年	「第4章：SWの形成過程」 ・ソーシャルワークの形成過程：『日本におけるSWの形成過程』を理解する。	「日本におけるSWの形成過程」 ・日本におけるSWの形成過程について、自分なりにイメージできる ・重要語句および人物を関連づけて認識することができる	檜垣
9	通年	「第4章：SWの倫理」 ・ソーシャルワークの倫理を理解する。	「SWの倫理」 ・専門職倫理が何かということを言葉にすることができる ・倫理綱領について、内容を説明することができる ・倫理的ジレンマについて自分なりにイメージすることができる	檜垣
10～13	通年	「SW実践者の想いと基盤形成」 ・ソーシャルワーカーの基盤形成に必要なものについて理解を深める。 ※MSW、SSW、行政、社協、児童養護のSWを予定	「ソーシャルワーカーの実践理解」 ・SW専門職の実践の実際を知る ・基盤形成に必要なものについて、自分なりにイメージできる	檜垣
14	通年	「第1～5章：振り返り」 ・科目の復習	「科目の復習」 ・前半に触れた事柄を思い起こし、理解を深めることができる	檜垣
15	通年	科目試験と解説	・自らの学習を振り返り、学習方法の修正および学習意欲を高めることができる。	檜垣
成績評価方法		「科目試験 80%」 + 「コメントペーパー/授業姿勢 20%」にて		
準備学習など		ソーシャルワークを行ううえでは、福祉分野のみならず、社会情勢や政治、経済、地域のニュースなど、あらゆる動向について多面的な視点で認識していく姿勢が求められます。普段の生活のなかでも常にアンテナを張り、一元的な視点に終始しないよう意識して物事を見るようにしてください。		
留意事項		特になし		

学科・年次	社会福祉科（昼間課程）1 学年
科目名	ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）
担当者	市川知律
単位数（時間数）	1 単位（30 時間）
学習方法	講義 演習
教科書・参考書	『最新・社会福祉養成講座 11 ソーシャルワークの基盤と専門職[共通・社会専門]』 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 中央法規出版

授業概要と目的
本科目は 2 人の教員にて[共通][社会専門]と分けて授業を担当する。 共通：「ソーシャルワーク専門職の基盤形成に必要な基礎学習(国試対策含む)」 社会専門：「多様なソーシャルワーク事例をとおした実践的学習」 として進めていく。 福祉ニーズの広範化と深刻化が進む現代社会において、人として生まれながらに持っている権利が守られ、地域で自らの意思決定により人生を送るために「総合的かつ包括的な相談援助」の担い手が求められている。 本講義は、ソーシャルワーク専門職の基盤形成に必要な知識および価値を中心に学び、「総合的かつ包括的な相談援助」の専門的機能を理解することを目的とする。なお、社会福祉士として、福祉事業所等で現場経験のあるものが、その経験を活かし講義を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	相談援助とケアマネジメント	相談援助技術全般と 1 手法としてのケアマネジメントを学ぶ	市川
2	通年	ケアマネジメント手法	ケアマネジメントの工程や効果、目標や定義を知る	市川
3	通年	演習 1（身体・知的重複） 意思決定支援の必要なケース アセスメント	ニーズ把握の難しいケースへのアプローチ方法を学び、エンパワメント支援を知る	市川
4	通年	演習 1（身体・知的重複） 意思決定支援の必要なケース 計画の立案	ニーズ把握の難しいケースへのアプローチ方法を学び、エンパワメント支援を知る	市川
5	通年	演習 1（身体・知的重複） 意思決定支援の必要なケース 共有とまとめ	ニーズ把握の難しいケースへのアプローチ方法を学び、エンパワメント支援を知る	市川
6	通年	演習 2（知的、精神、身体重複） 支援困難なケース アセスメント	支援困難な多問題ケースへのアプローチを学び、環境との相互作用を知る	市川

7	通年	演習 2 (知的、精神、身体重複) 支援困難なケース 計画立案	支援困難な多問題ケースへのアプロ ーチを学び、環境との相互作用を知る	市川
8	通年	演習 2 (知的、精神、身体重複) 支援困難なケース 共有とまとめ	支援困難な多問題ケースへのアプロ ーチを学び、環境との相互作用を知る	市川
9	通年	虐待対応について	虐待対応とそのメカニズムを学ぶ	市川
10	通年	演習 3 (虐待) 配偶者による虐待のケース アセスメント	虐待事例を通し、その解決と養護者支 援の重要性を学ぶ	市川
11	通年	演習 3 (虐待) 配偶者による虐待のケース 計画立案	虐待事例を通し、その解決と養護者支 援の重要性を学ぶ	市川
12	通年	演習 3 (虐待) 配偶者による虐待のケース 共有とまとめ	虐待事例を通し、その解決と養護者支 援の重要性を学ぶ	市川
13	通年	講師事例の事例検討会	模擬的に事例検討を行い、事例検討に 必要な知識を身につける	市川
14	通年	終講試験用の事例の出題	講師の持ち事例を実際にアセスメン トし問題の解決手法を考える	市川
15	通年	終講試験とまとめ	学んだ知識が生かせることを確認す る	市川
成績評価方法		100 点満点 (科目試験 80%+授業態度 20%)		
準備学習など		ソーシャルワークを行ううえでは、福祉分野のみならず、社会情勢や政治、経済、地域のニュー スなど、あらゆる動向について多面的な視点で認識していく姿勢が求められます。普段の生活 のなかでも常にアンテナを張り、一元的な視点に終始しないよう意識して物事を見るようにし てください。		
留意事項		特になし		

学科・年次	社会福祉科（昼間課程）1 学年
科目名	ソーシャルワークの理論と方法
担当者	仲野 文伸
単位数（時間数）	2 単位（60 時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	最新・社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 12「ソーシャルワークの理論と方法」 一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 中央法規出版

授業概要と目的
ソーシャルワークとは、社会福祉を体現する方法論である。本教科ではソーシャルワークを理解し実践する上で必要とされる、ソーシャルワークにおける基盤となる様々な理論について理解をして、ソーシャルワークを展開する上で必要な視点を深める。またソーシャルワークの過程について具体的なソーシャルワークの知識を理解した上で、クライアントに対する支援の姿勢や情報収集の手法を身につける。 そして、本教科の目的に以下を挙げる。 ① 人と環境との交互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する。②ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解する。③ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。④ケアマネジメントについて理解する。⑤グループを活用した支援について理解する。⑥コミュニティワークの概念とその展開について理解する。⑦ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する。

回 (コマ)	授業 日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	オリエンテーション 第1章 人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク ソーシャルワーカーが学ぶ理論	・ 科目の概要。構成 ・ ソーシャルワーク理論の成り立ち ・ ソーシャルワーカーが学ぶ理論のタイプ	仲野
2	通年	第1章 人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク 人と環境との相互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク ①	・ システム理論	仲野
3	通年	第1章 人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク	・ 生態学理論 ・ バイオ・サイコ・ソーシャルモデル	仲野

		人と環境との相互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク ②		
4	通年	第1章 人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク 人と環境との相互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク ③	・マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク ・ソーシャルワークの目標と展開（援助関係と面接技術、社会資源の活用・調整・開発、ケースの発見とインテーク）	仲野
5	通年	第2章 ソーシャルワークの過程 ①	・ケースの発見とエンゲージメント（インテーク）	仲野
6	通年	第3章 ソーシャルワークの過程 ②	・アセスメントの意義と目的 ・アセスメントの方法・留意点	仲野
7	通年	第4章 ソーシャルワークの過程 ③	・プランニングの意義と目的 ・プランニングの方法・留意点	仲野
8	通年	第5章 ソーシャルワークの過程④	・支援の実施とモニタリング ・効果測定	仲野
9	通年	第6章 ソーシャルワークの過程 ⑤	・支援の終結と結果評価、アフターケア	仲野
10	通年	第7章 ソーシャルワークの実践モデル①	・ソーシャルワークの実践モデルの種類と考え方 ・治療モデル	仲野
11	通年	第7章 ソーシャルワークの実践モデル②	・生活モデル ・ストレングスモデル	仲野
12	通年	第7章 ソーシャルワークの実践アプローチ ①	・心理社会的アプローチ ・機能的アプローチ	仲野
13	通年	第7章 ソーシャルワークの実践アプローチ ②	・問題解決アプローチ ・課題中心アプローチ	仲野
14	通年	第7章 ソーシャルワークの実践アプローチ ③	・行動変容アプローチ ・認知アプローチ	仲野
15	通年	第7章 ソーシャルワークの実践アプローチ ④	・危機介入アプローチ ・エンパワメントアプローチ	仲野
16	通年	第7章 ソーシャルワークの実践アプローチ ⑤	・ナラティブアプローチ ・解決志向アプローチ ・その他のアプローチ	仲野
17	通年	第8章 ソーシャルワークの面接	・ソーシャルワークの面接意義と目的 ・ソーシャルワークの面接の方法と実際	仲野
18	通年	第9章 ソーシャルワークの記録	・記録の意義と目的 ・記録の方法と内容	仲野

19	通年	第10章 ケアマネジメント（ケースマネジメント）①	・ケアマネジメント（ケースマネジメント）の背景 ・ケアマネジメント（ケースマネジメント）の意義、対象および基本的な原則	仲野
20	通年	第10章 ケアマネジメント（ケースマネジメント）②	・ケアマネジメント（ケースマネジメント）のモデル。プロセス	仲野
21	通年	第10章 ケアマネジメント（ケースマネジメント）③	・個人情報保護、ITの活用、ネットワーキングなど	仲野
22	通年	第11章 グループを活用した支援①	・グループワークの意義と目的、対象、実践モデル ・グループワークの原則 - 個別化・受容・参加・体験の原則 - 葛藤解決・制限・継続評価の原則	仲野
23	通年	第11章 グループを活用した支援②	・グループワークの展開過程 - 準備期・開始期 作業期、終結期	仲野
24	通年	第11章 グループを活用した支援③	・セルフヘルプグループ ・自助グループを活用したソーシャルワーク	仲野
25	通年	第12章 コミュニティワーク	・コミュニティワークの意義と目的 ・コミュニティワークの理論的系譜 ・コミュニティワークの展開	仲野
26	通年	第13章 ソーシャルアドミニストレーション	・ソーシャルアドミニストレーションの概念 ・組織介入の実践モデル ・組織運営の財源	仲野
27	通年	14章 ソーシャルアクション	・ソーシャルアクションの概念 - コミュニティ・オーガナイズিং	仲野
28	通年	第15章 スーパービジョンとコンサルテーション①	・スーパービジョンの意義 ・スーパービジョンの目的 ・スーパービジョンの方法	仲野
29	通年	第15章 スーパービジョンとコンサルテーション②	・コンサルテーションの意義 ・コンサルテーションの目的 ・コンサルテーションの方法	仲野
30	通年	全体のまとめ	・全体の振り返り ・ソーシャルワーカーの実践力とは	仲野
成績評価方法		修了試験 60%、課題 20%、授業姿勢 20%程度での総合評価とする。		

準備学習など	日ごろから、社会問題に関心を持ち、新聞、TV のドキュメンタリー・ニュース等から社会への関心を持ち、考察力、感受性を養う。
留意事項	特になし

学科・年次	社会福祉科昼間課程 1 学年
科目名	ソーシャルワークの理論と方法（専門）
担当者	中上純二
単位数（時間数）	2 単位(60 時間)
学習方法	講義及び演習
教科書・参考書	『最新・社会福祉士養成講座 6.ソーシャルワークの理論と方法（社会専門）』 中央法規出版 2021 年 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集

授業概要と目的
▼人は生きていくうえで様々な出来事に直面する。ソーシャルワークは、クライアントの人生で起きる様々な困り事に対して、まずは相談から始まり、クライアント自身で歩いていくことができる支援（自立支援）を探っていく。その際に、あるべき姿（目標）を見立て、そこから逆算して「今、何が必要か」を考える。支援目標を見立てるためには、クライアント目線でのアセスメントをできる限りしっかりと押さえることが必要となる。またクライアントの言動の奥や行間にある、本当の思いを推し量り、ニーズにつなげていく。そして支援の展開し、最終的には支援が不要となり、クライアントが自らの意思で選択した人生を歩いていく。▼多様化、複雑化してきているクライアントの困りごとやニーズに対応するためには、根拠のある実践が求められる。そこには知識と技術、そしてソーシャルワークの価値に裏付けられた専門性が支援展開の軸となる。▼またソーシャルワークは「人と環境の接点に介入する」機能を持つ。社会資源をいかに支援に結びつけるか、そこには資源の活用、再開発という視点も求められる。さらに他の専門職種との連携も欠かせない。▼理論とともに様々な事例を通して、ソーシャルワークの理論と方法を学ぶ。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	ソーシャルワークの全体像を捉える ソーシャルワークが行われる実践の 場面を紹介する	社会福祉士の専門性を理解する 事例を通してソーシャルワークを理解する	中上純二

2	通年	第1章 第1節 総合的かつ包括的な支援の考え方	総合的かつ包括的な支援の考え方を理解する 多様化・複雑化した生活課題に対応するために分野領域を超えた問題解決の展開を理解する。	中上純二
3	通年	第1章 第2節 家族支援の実際	家族を取り巻く社会、複合的な課題を理解する。	中上純二
4	通年	第2章 第2節 家族支援の実際	家族のアセスメント、家族支援の視点を理解する	中上純二
5	通年	第1章 第3節 地域支援の実際	地域が抱える課題について支援プロセスを理解する	中上純二
6	通年	第1章 第3節 地域支援の実際	地域の機関の具体的な連携を理解する 地域支援に必要な専門性を理解する	中上純二
7	通年	第1章 第4節 非常時や災害時支援の実際	非常時や災害時の生活課題について理解する	中上純二
8	通年	第1章 第4節 非常時や災害時支援の実際	非常時・災害時での支援の目的、留意点を理解する 災害ソーシャルワークの実際を理解する	中上純二
9	通年	第2章 第1節 援助関係形成の意義と概念	ソーシャルワークにおける援助関係の重要性と意義を理解する ソーシャルワークの定義、構成要素から見た援助関係の意義を理解する	中上純二
10	通年	第2章 第2節 援助関係の形成方法と留意点	クライアントシステム及び実践レベルにおける援助関係の意義を理解する	中上純二
11	通年	第3章 第1節 ネットワーキング	ネットワークの特性を理解する ネットワーキングのプロセスを理解する	中上純二
12	通年	第3章 第2節 コーディネーション	コーディネーションの意義と方法を理解する	中上純二
13	通年	第4章 第1節 社会資源の活用・調整	ソーシャルワークにおける社会資源の位置づけ、種類と内容、活用方法を理解する	中上純二
14	通年	第4章 第2節 ソーシャルワーク実践と社会資源	介入と社会資源との関係を理解する 社会資源の開発について理解する	中上純二
15	通年	第4章 第3節 社会資源開発の様々な方法	社会資源開発の方法について理解する	中上純二
16	通年	第4章 第3節 社会資源開発の様々な方法	社会資源開発に必要なスキルを理解する	中上純二
17	通年	第5章 第1節 会議の種類と方法	実践における会議について理解する 会議に必要なスキルを理解する	中上純二
18	通年	第5章 第2節 ミクロ・メゾ・マクロの会議	ミクロ・メゾ・マクロそれぞれの会議について理解する	中上純二
19	通年	第6章 第1節 事例分析	事例分析の目的と意義、ポイントについて理解する	中上純二

20	通年	第6章 第2節 事例検討	事例検討の目的と意義、ポイントについて理解する	中上純二
21	通年	第6章 第3節 事例研究	事例研究の目的と意義、ポイントについて理解する	中上純二
22	通年	第6章 第3節 事例研究	事例研究の実際を理解する	中上純二
23	通年	第7章 第1節 ネゴシエーション	ネゴシエーションの種類、原則、プロセスを理解する。	中上純二
24	通年	第7章 第2節 コンフリクト・レゾリューション	コンフリクトについて理解する。 リスクコミュニケーションについて理解する	中上純二
25	通年	第7章 第3節 ファシリテーション	ファシリテーションの意義、プロセス、スキルを理解する	中上純二
26	通年	第7章 第4節 プレゼンテーション	プレゼンテーションのプロセス、マネジメント、評価を理解する	中上純二
27	通年	第7章 第5節 ソーシャル・マーケティング	ソーシャルマーケティングの概念、プロセスを理解する	中上純二
28	通年	全体のまとめ	ソーシャルワークの理論と方法についての自身の理解度を把握する	中上純二
29	通年	科目終了試験		中上純二
30	通年	ソーシャルワークとは	ソーシャルワークの専門性を改めて振り返ることができる	中上純二
成績評価方法		100点満点（科目修了試験）＋出席、授業姿勢状況		
準備学習など		他科目との関連性を日頃から意識する。 ソーシャルワークにかかわる時事の情報を収集し、自身の考えを導き出してみる。		
留意事項		講義方法については、講義及びグループワークの形式について随時指示する。 テキストのほかに、配布資料、視聴教材等を随時提示する。		

学科・年次	社会福祉科昼間課程 1 学年
科目名	地域福祉と包括的支援体制
担当者	江原隆宜
単位数（時間数）	2 単位(60 時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	『最新・社会福祉士養成講座 6 地域福祉と包括的支援体制』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集、中央法規出版

授業概要と目的
【目標】包括的支援の構成員及び連携の仕組みを説明できる 1974（昭和 49）年日本ではじめて「地域福祉」を体系的に論じた岡村重夫は、「対象者をとりまく地域社会そのものを直接の対象とする社会福祉の方法がなくてはならない。そこにケースワークも含めた高次の社会福祉概念として『地域福祉』という新しい接近法が要求されるのである」（岡村『地域福祉論』光生館、p2）と述べている。地域社会は、地域住民の暮らしの場であり、そこでは、地域ごと固有な「地域福祉」が展開されている。 日本では、国内・外の経済・社会・自然環境の変化によって、多様な生活問題が、都市部においても農村部においても発生している。8050 問題、児童虐待、孤独死、老々介護による自殺などが起こる背景に、その家庭の「限界」を、近隣住民、行政機関、専門職がキャッチできなかった「社会的孤立」の問題がある。これまでの法律・制度を中心とした社会福祉の仕組みでは、「社会的孤立」など制度の狭間の問題に十分に対応できないため、新たな地域福祉＝包括的支援体制の構築の必要性が「地域共生社会の実現」として提言されている。しかし、「地域共生社会」の実態は、それぞれの地域社会によって大きく異なっている。特に住民同士のつながりは、それまでの住民の暮らし方、住民自治、地域自治の仕組みなどによって多様なありようである。 社会福祉士や精神保健福祉士には、誰もが安心して暮らせる地域づくりを住民・行政と協議・協働しながら共に進めてゆく役割（コミュニティソーシャルワーク）が期待されている。こういった役割を担う上で、地域社会を構成している機関・組織・団体を、熟知する必要がある。自治会、行政の福祉機関、市区町村社会福祉協議会、民生委員・児童委員、地域包括支援センター、社会福祉法人・NPO 法人等が、できることを出し合える関係を形成し、福祉コミュニティが機能するための地域社会づくりを調整・開発する役割を担うことができればならない。その基礎的知識を試す社会福祉士国家試験では、これらに関する法律・制度、歴史的変化などが、頻出問題になっている。したがってこの科目では、コミュニティソーシャルワーカーとして活動するための基本的知識を習得すること目標にする。

回	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担 当 者
1	4/7	オリエンテーション	「科目の到達目標、授業内容の説明」	江原
2	14	「第 1 章：地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題」 (地域社会の変化と生活課題を関連づけて理解できる)	「地域社会の概念と理論、地域社会の変化」 (生活の場としての地域社会を理解できる)	江原
3	21		「多様化・複雑化した地域生活課題の現状とニーズ」 (地域生活課題の変化を理解できる)	江原
4	28		「地域福祉と社会的孤立」 (社会的孤立と生活課題の関係性を理解できる)	江原
5	5/12	第 1 章のまとめ	「地域社会の変化と地域生活課題」 (地域社会の変化と生活課題を関連づけて理解できる)	江原
6	19	「第 2 章：地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制」 (包括的支援体制の実現に向けたソーシャルワーカーの役割を理解する)	「地域包括ケアシステム、生活困窮者自立支援」 (地域包括ケアシステムを理解できる)	江原
7	19		「包括的支援体制とは」 (包括的支援体制の展開方法を理解できる)	江原
8	26		「地域共生社会の構築とは」 (地域共生社会の概念を理解できる)	江原
9	6/2		「地域共生社会の実現に向けた各種施策」 (包括的支援体制に向けた市町村の体制整備を理解できる)	江原
10	2	第 2 章のまとめ	「地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制」	江原

			(包括的支援体制の実現に向けたソーシャルワーカーの役割を理解する)	
11	9	「第 3 章：地域福祉ガバナンスと多機関協働」 (多機関協働による地域福祉ガバナンスの展開が理解できる)	「地域福祉ガバナンス」 (地域福祉ガバナンスの概念を理解できる)	江原
12	16		「多機関協働を促進する仕組み」 (多機関が協働する意義を理解できる)	江原
13	16		「多機関連携、多機関協働の実際」 (多機関連携のイメージを持つことができる)	江原
14	23	第 3 章のまとめ	「地域福祉ガバナンスと多機関協働」 (多機関協働による地域福祉ガバナンスの展開が理解できる)	江原
15	9/8	「第 4 章：地域福祉の基本的考え方」 (地域福祉の概念を歴史的に理解できる)	「地域福祉の概念と理論」 (地域福祉の概念が理解できる)	江原
16	22		「地域福祉の歴史」 (地域福祉の歴史が理解できる)	江原
17	29		「地域福祉の動向」 (「新たな地域福祉」を理解できる)	江原
18	29		「地域福祉の推進主体 1」 (市区町村社会福祉協議会の役割が理解できる)	江原
19	10/6		「地域福祉の推進主体 2」 (民生委員・児童委員の役割が理解できる)	江原
20	20		「地域福祉の主体と福祉教育」 (地域福祉における福祉教育の取り組みを理解できる)	江原
21	27	「第 5 章：地域を基盤としたソーシャルワークの展開」 (コミュニティソーシャルワークのイメージが持てる)	「地域を基盤としたコミュニティソーシャルワークの方法」 (コミュニティソーシャルワークの概念が理解できる)	江原
22	27		「住民の主体形成に向けたアプローチ」 (住民主体の意義を理解する)	江原
23	11/10		「具体的な展開」 (具体的な展開過程が理解できる)	江原
24	17	「第 6 章：非常時における総合的かつ包括的な支援体制」	「非常時や災害時における法制度と総合的・包括的な支援」 (災害時に向けた日常の包括的支援の活動を理解する)	江原
25	12/1	「第 7 章：福祉計画の意義と種類、策定と運用」 (ソーシャルワークとしての福祉計画の策定)	「福祉計画の定義、目的、機能と歴史的展開」 (福祉計画の機能を理解する)	江原
26	1		「福祉計画の策定過程と方法」 (福祉計画の策定過程を理解する)	江原
27	8	「第 8 章：福祉行政システム」 (福祉行政システムと財源の理解)	「国、都道府県、市町村の役割」 (相互の関係性を理解する)	江原
28	8		「福祉行政の組織および専門職の役割」 (社会福祉の実施体制を理解する)	江原
29	12/15	第 4 章、第 5 章、第 6 章、第 7 章、第 8 章のまとめ	「コミュニティソーシャルワークの目的と方法」 (地域社会におけるコミュニティソーシャルワークの意義が理解できる)	江原
30	15	科目試験とまとめ		江原
成績評価方法		科目試験 100 点 (国家試験形式 20 問題×4 点、括弧抜き問題 10 問題×2 点)		
準備学習など		授業はテキストに沿って行いますので、次回の該当ページを授業までに読んで下さい。 自分が暮らす市区町村の市町村地域福祉計画を概観しておいてください。		
留意事項		「共に学ぶ」・「学び合い」を重視しているため学生の皆さんにも授業に参加していただくことがあります。		

学科・年次	社会福祉科（昼間課程）1 学年
科目名	福祉サービスの組織と経営
担当者	江原隆宜
単位数（時間数）	1 単位（30 時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	『最新・社会福祉養成講座 1 福祉サービスの組織と経営』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集、中央法規出版

授業概要と目的
【目標】福祉サービスの組織と経営のあり方とサービスの質の関連性を理解できる。 利用者が社会福祉制度を活用して福祉サービスを利用する場合、その福祉サービスを提供する組織、法人が必要である。講義では、福祉サービスを提供している法人や施設・組織の特徴について理解をすすめる、その中で特に「社会福祉法人」の福祉サービス管理運営方法について検討する。その結果、福祉サービスの質は、社会福祉制度、組織内部のあり方（経験・能力・価値規範、仕組み）、地域社会との相互関係により異なることが理解できる。 施設・機関に勤務する社会福祉士は、福祉サービスの質をより高める上でリーダーシップを果たすことが期待されている。このことは勤務する組織、法人のみならず、地域住民や地域社会からの期待でもある。その基礎的知識を試す社会福祉士国家試験では、これらに関する法律・制度、理論などが、頻出問題になっている。したがってこの科目では、コミュニティソーシャルワーカーとして組織の内外で活動するための基本的知識を習得すること目標にする。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	4/7	「第1章：福祉サービスに係る組織や団体の概要と役割を理解する」 (法人や組織の特徴が理解できる)	「福祉サービスを提供する組織を理解する」 (社会福祉法人の特徴が理解できる)	江原
2	14		「福祉サービスの沿革と概要を理解する」 (社会福祉法人の役割が理解できる)	江原
3	21		「組織間連携と促進を理解する」 (組織間連携の目的が理解できる)	江原
4	28	「第2章：福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論を理解する」 (組織と経営の基礎理論が理解できる)	「組織運営に関する基礎理論を理解する」 (動議付け理論が理解できる)	江原
5	5/12		「集団の力学に関する基礎理論を理解する」 (集団の凝集性と負の側面が理解できる)	江原
6	26		「リーダーシップに関する基礎理論を理解する」 (特性理論と行動理論が理解できる)	江原
7	6/9	「第3章：福祉サービス提供組織の経営と実際」 (経営の実際を理解する)	「経営体制を理解する」 (社会福祉法人の経営体制が理解できる)	江原
8	6/23		「福祉サービス提供組織のコンプライアンスとガバナンスを理解する」 (社会福祉法人のガバナンスが理解できる)	江原
9	6/30		「適切な福祉サービスの経営管理」 (サービスの質の向上の仕組みが理解できる)	江原
10	9/8		「情報管理を理解する」 (個人情報保護法の内容が説明できる)	江原
11	9/22		「会計管理と財務管理を理解する」	江原

			(社会福祉法人の財務諸表が理解できる)	
12	10/6	「第4章:福祉人材のマネジメント」 (労働者としての専門職を理解する)	福祉人材マネジメント (人材マネジメントシステムが理解できる)	江原
13	10/20		福祉人材の育成 (人材育成の仕組みと方法が理解できる)	江原
14	11/10		働きやすい労働環境の整備 (労働関係法令の概要が理解できる)	江原
15	11/17	科目試験と解説		江原
成績評価方法		科目試験 100 点 (国家試験形式 20 問題×4 点、括弧抜き問題 10 問題×2 点)		
準備学習		授業はテキストに沿って行いますので、次回の該当ページを授業までに読んで下さい。		
留意事項				

学科・年次	社会福祉科昼間課程 1 学年
科目名	社会保障
担当者	水野勝康
単位数 (時間数)	2 単位(60 時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	『最新・社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 7 社会保障』 中央法規出版 2021 年 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集

授業概要と目的
・社会保障制度の発展過程・理念・機能・財政構造等を学び、社会保障の全体像を把握することが出来るようになる。 ・社会保険制度を中心に各制度の対象者、財源、給付内容等を具体的に理解し、概要を説明することが出来るようになる。 ・少子高齢化が進む社会情勢を把握するとともに、社会保障制度が直面する諸課題を理解し、社会保障制度のあり方を見通すことができるようになる。 ・公的保険と民間保険の役割と関係について理解し、公私の保障の在り方について考察することができる。 ・諸外国における社会保障制度の概要について理解し、多様な社会保障制度の在り方を認識することができる。 ・具体的な問題に対し、社会保障制度を俯瞰し、相互の関係性を念頭に置いて一定の結論を導き出せるようになる。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	社会保障の概念、理念、範囲について理解する	・社会保障の概念、基本的理念を理解する ・社会保障制度の体系と範囲を理解する	水野勝康
2	通年	現代社会における社会保障の意義と役割について理解する	・ナショナル・ミニマムについて理解する ・再分配の仕組みと方法について理解する	水野勝康
3	通年	社会保障の概念と範囲、社会保障の役割と意義、社会保障の理念、社会保障の対象について理解する	・社会保障の体系について理解する ・社会福祉、社会保険、社会扶助の違いを理解し、説明することができる	水野勝康
4	通年	社会保障の歴史を学び、発展過程と方向性について理解する	・主にヨーロッパにおける社会保障の萌芽期・創設期を背景の社会的状況とともに理解する	水野勝康
5	通年	社会保障の歴史を学び、発展過程と方向性について理解する	・主に日本における大戦前後の社会保障の流れを把握し、戦後の確立過程を理解する	水野勝康
6	通年	社会保険と社会扶助の構造について理解する	・社会保険制度の特徴と名称を列記することができる ・社会扶助の種類と内容を理解する	水野勝康
7	通年	公的保険と民間保険の関係について理解する	・公的保険と民間保険の仕組みの違いと関係について説明することができる ・企業年金、個人年金の仕組みを理解する	水野勝康
8	通年	公的医療保険制度の沿革と役割について理解する	・公的医療保険制度の発展過程を理解し、全体像を把握する ・公的医療保険の目的と役割を理解する ・国民皆保険の意義について理解する	水野勝康
9	通年	公的医療保険制度の仕組みについて理解する	・被用者医療保険の加入対象者、給付内容、費用負担について理解する ・国民健康保険の加入対象者、給付内容、費用負担について理解する	水野勝康
10	通年	公的医療保険制度の仕組みについて理解する	・高齢者医療制度を体系的に把握する ・前期高齢者医療制度の仕組み、加入対象者、財源構成について理解する ・後期高齢者医療制度の加入対象者と財源構造について理解する	水野勝康
11	通年	介護保険制度の仕組みについて理解する	・介護保険成立の背景を把握する ・介護保険の加入対象者について説明できる	水野勝康

12	通年	介護保険制度の仕組みについて理解する	・介護保険制度の給付内容と費用負担について理解する ・介護保険の財源構造について理解をする	水野勝康
13	通年	公的年金制度の沿革と役割について理解する	・公的年金制度の発展過程を把握し、制度全体の概要を理解する ・国民年金と厚生年金の違いと関連について説明できる	水野勝康
14	通年	公的年金制度の仕組みについて理解する	・国民年金の目的と役割について理解する ・国民年金の加入対象者について理解する	水野勝康
15	通年	公的年金制度の仕組みについて理解する	・基礎年金の種類、支給要件、給付内容を理解する ・国民年金の負担方法について理解する	水野勝康
16	通年	公的年金制度の仕組みについて理解する	・厚生年金の加入対象者について把握する ・厚生年金の種類、支給要件、給付内容について理解する	水野勝康
17	通年	公的年金制度の仕組みについて理解する	・厚生年金と基礎年金が同時給付される場合の支給要件と給付内容について理解する	水野勝康
18	通年	公的年金制度の動向と課題について考察する	・公的年金制度の改革の動向と課題を把握する	水野勝康
19	通年	労働保険制度の仕組みについて理解する	・労働保険の発展過程について理解する ・労災保険と雇用保険の役割について理解する	水野勝康
20	通年	労働保険制度の仕組みについて理解する	・労災保険の目的と加入対象者について説明できる ・労災保険の給付内容、支給要件、財源について理解する	水野勝康
21	通年	労働保険制度の仕組みについて理解する	・雇用保険の給付内容、支給要件、財源について理解する	水野勝康
22	通年	生活保護制度の仕組みについて理解する	・生活保護の理念について理解する。 ・生活保護の給付の考え方について、社会保険による給付との違いを理解する。	水野勝康
23	通年	生活保護制度の仕組みについて理解する	・生活保護の範囲と給付の仕組みを理解する ・生活保護受給者に自立を促す仕組みについて理解する	水野勝康

24	通年	社会手当制度について理解する	・児童に対する手当の仕組みについて理解する。 ・障害者に対する手当の仕組みについて理解する。	水野勝康
25	通年	社会福祉制度について理解する	・障害者、子ども、家族、高齢者の各種支援について理解する。	水野勝康
26	通年	社会保障費用について理解する	・社会保障の財政について理解する ・社会保障給付費の規模、分配内容、財源構成を理解する	水野勝康
27	通年	社会保障費用について理解する	・社会保障費用と国民経済との関連を把握する ・国民負担率、社会保障と経済の問題を理解する	水野勝康
28	通年	諸外国における社会保障制度を理解する	・欧米、アジアの主要国における社会保障制度の仕組みと給付内容の概要を理解する	水野勝康
29	通年	社会保障の国際比較を理解する	・社会保障の国際比較の中から、その国の課題について理解する	水野勝康
30	通年	科目終了試験と解説	・科目終了試験の実施 ・試験問題出題趣旨の解説	水野勝康
成績評価方法		100 点満点（科目試験 100%）		
準備学習など		授業の前後にはテキストに目を通してください。 基本的にはテキストをベースとして講義を行います。ただし、発展的な学習のための資料等を適宜配布して解説する場合があります。		
留意事項		社会保障制度は動いています。新聞・テレビ・ネット等報道される関連記事等に目を通し、改定の背景と内容に目を向けるよう心掛けてください。また、将来の方向性は様々な議論の中から生まれてきますので、社会保障に関する各種意見についても目を通しておくことが大切です。 社会福祉士は試験においても、また実務に就いてからも、他の社会保障関係の専門家以上に制度横断的な知識を使いこなすことが求められますので、その点を念頭に講義を行います。 休講の可能性があるので、周知には気を付けてください。休講の場合は補講を行います。 基本的に休講した場合は講義の回は繰り下げますが、事前に休講がわかっている場合等は繰り上げて補講を実施することがあります。		

学科・年次	社会福祉科昼間課程 1 学年
科目名	高齢者福祉
担当者	森 禎伸
単位数（時間数）	1 単位(30 時間)
学習方法	講義とグループワーク（事例検討等）
教科書・参考書	○最新・社会福祉士養成講座「高齢者福祉」第2版 中央法規出版 ○「令和6年版高齢社会白書」内閣府 ○「令和5年国民生活基礎調査」厚生労働省

授業概要と目的
本科目では、社会福祉士に求められる高齢者福祉に関する基礎的な事柄について総合的に理解するために、高齢者の身体的・精神的・社会的な特性をはじめ、わが国の高齢者を取り巻く社会情勢や要援護高齢者に関する現況、「老人福祉法」、「高齢者の居住の安定確保に関する法律」、「高齢者虐待防止法」等の重要法令、21世紀福祉ビジョン、新ゴールドプラン、介護保険制度等のわが国の高齢者関連施策等について学び、今後の高齢者福祉において求められる社会福祉士の役割等について考察できるようにする。 特に、本科目において重要となる介護保険制度については、保険者や被保険者、要介護認定の仕組み、介護予防支援や居宅介護支援の目的や方法、予防給付や介護給付における居宅サービス、施設サービス、地域密着型サービス等の種別や内容、保険料と利用者負担、保険財源等について、細かな事項も含め学習することにより、平成17年の介護保険法改正にともなう介護予防重視型システムへの転換や地域包括ケアシステムの実現を目指した平成23年及び平成26年、平成29年、令和3年、令和6年の介護保険法の改正内容について理解を深め、少子高齢社会における介護保険制度のもつ意義や重要性等について認識を深められることを目指すと共に、新型コロナウイルスがもたらした影響を考察する。 また、社会福祉士としてソーシャルワークに取り組む際に求められる介護の概念やその対象及び理念ならびに、介護過程における介護の技法や介護予防の基本的な考え方、さらに終末期ケアの在り方（人間観や倫理を含む）について理解する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	「オリエンテーション」 本科目の授業内容や授業の進め方、科目評価について理解する。	本科目の学び方 ・シラバス、使用テキスト、授業の進め方等について理解する。 ・本科目で学ぶことの全体像や授業の進め方について説明できる。 ・授業に積極的に参加できる。	森
2	通年	「高齢者と少子高齢化（1）」 高齢期の社会的・身体的・精神的・総合的な特性について理解する。	・高齢期における社会的特性について説明できる。 ・高齢期の身体的な変化や特性について説明できる。 ・高齢期の精神的な変化や特性について説明できる。	森

			・高齢期に起こる総合的な変化や特性について説明できる。	
3	通年	「高齢者と少子高齢化（２）」 少子高齢社会の到来を理解する。	・日本の高齢化の状況及び高齢化が進む理由について説明できる。 ・今後の高齢化の見通し、特徴と課題を説明できる。	森
4	通年	「高齢者福祉の歴史と理念」 高齢者観の変遷及び発展過程・理念について理解する。	・高齢者観の変遷・変化・諸概念について説明できる。 ・高齢者福祉の発展過程から介護保険制度の誕生、地域包括ケアシステムの構築まで説明できる。	森
5	通年	「介護保険制度（１）」 介護保険制度の概要について理解する。	・介護保険制度の枠組み・財政について説明できる。 ・介護保険制度の仕組み・保険料について説明できる。 ・要介護認定の仕組みとプロセスについて説明できる。 ・介護保険事業計画について説明できる。	森
6	通年	「介護保険制度（２）」 地域支援事業について理解する。	・地域支援事業の内容を説明できる。 ・地域包括支援センターの役割・体制・業務について説明できる。	森
7	通年	「介護保険制度（３）」 介護保険サービスの体系を理解する。	・居宅サービスについて説明できる。 ・介護予防サービスについて説明できる。 ・地域密着型サービスについて説明できる。 ・施設サービスについて説明できる。	森
8	通年	「高齢者に関する関連諸制度（１）」 ・高齢者保健福祉の法体系を理解する。 ・老人福祉法を理解する。	・高齢社会対策基本法の内容について説明できる。 ・老人福祉法の成立の背景、改正の経過を説明できる。	森
9	通年	「高齢者に関する関連諸制度（２）」 ・高齢者医療確保法を理解する。 ・高齢者虐待防止法について理解できる。	・旧・老人保健法からの流れ及び後期高齢者医療制度について説明できる。 ・高齢者虐待についての定義・種類を説明できる。 ・高齢者虐待の未然防止について説明できる。	森

10	通年	「高齢者に関する関連諸制度（３）」 ・バリアフリー訪について理解する。 ・高齢者住まい法について理解する。 ・高齢者雇用安定法について理解する。	・日本におけるバリアフリー政策の展開と法改正について説明できる。 ・高齢者住まい法の流れと展望について説明できる。 ・高齢者雇用安定法の沿革と改正について説明できる。	森
11	通年	「高齢者に関する関連諸制度（４）」 ・育児・介護休業法について理解する。 ・市町村独自の高齢者支援について理解する。	・育児・介護休業法の目的・内容・現状における課題を説明できる。 ・市町村独自の高齢者支援の意義について説明できる。	森
12	通年	「高齢者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割」 ・行政の役割について理解する。 ・指定サービス事業者・国民健康保険団体連合会の役割を理解する。 ・ハローワーク、シルバー人材センターの役割を理解する。	・国、都道府県、市町村の役割を説明できる。 ・指定サービス事業者、国民健康保険団体連合会の機能と役割を説明できる。 ・ハローワーク、シルバー人材センターの機能と役割を説明できる。 ・関連するフォーマルな専門職、インフォーマルな援助者の役割を説明できる。	森
13	通年	「高齢者と家族等に対する支援の実際（１）」 ・アセスメントとコミュニケーションを理解する。 ・ソーシャルワークの特性を理解する。	・高齢者の包括的アセスメントとコミュニケーションの要点について説明できる。 ・個人、家族、グループ、地域へのソーシャルワークについて説明できる。 ・認知症ケア、終末期ケアにおけるソーシャルワークについて説明できる。	森
14	通年	「高齢者と家族等に対する支援の実例（２）」 実践事例を通じて、各専門職との連携や共同について理解する。	・実践事例を通して、家族支援、8050問題、独居高齢者の近隣トラブルについて検証し、社会福祉士による支援を説明できる。	森
15	通年	科目試験と解説	「科目試験の実施、評価」 ・科目試験を通して、高齢者福祉に関して学んだことを確認することができる。	森
成績評価方法		科目試験（100点）		
準備学習など		受講前に、テキストの次回の講義範囲に目を通しておいください。		
留意事項		特になし。		

学科・年次	社会福祉科（昼間課程）1 学年
科目名	障害者福祉
担当者	太田 隆康
単位数（時間数）	1 単位（30 時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 8『障害者福祉』第 2 版 中央法規出版

授業概要と目的
・生きづらさを抱えた方への支援技能を身に付けるため、障害者の生活実態や障害者を取り巻く情勢、障害者を支援するための制度について理解する。 ・精神保健福祉士・社会福祉士として現在独立開業しているものが現場経験を活かした指導を行い、障害福祉分野のソーシャルワークへの理解を深める。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢について理解する	・ I C F 視点で「障害」を理解する ・統計をもとにして、障害者の置かれている現状を理解する	太田
2	通年	障害者福祉制度の発展過程について理解する	・障害者福祉制度の発展過程について理解する ・措置制度から契約制度への変化、本人主体のサービス利用を理解する	太田
3	通年	障害者総合支援法に基づくサービスを理解する	・障害者総合支援法に基づく障害福祉サービスの種類を理解する ・サービス提供の流れとサービス管理責任者の役割を理解する	太田
4	通年	障害者総合支援法に基づくサービスを理解する②	・支給決定の仕組みとプロセスについて理解する ・支給決定プロセスにおける相談支援専門員の役割について説明することができる ・相談支援専門員が行うソーシャルワークの視点について理解する ・多職種連携で必要な視点を理解する ・身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の制度について説明できる	太田

		身体障害者福祉法・知的障害者福祉法・精神保健福祉法について理解する	・各法律に基づく制度を理解する	
5	通年	障害者の権利について考察する	・障害者の権利に関わる問題について、優生思想などの歴史も踏まえて多面的に考えることができる ・障害者虐待防止法について理解する	太田
6	通年	障害者の社会参加と、障害者基本法について理解する	・障害当事者の社会参加と当事者運動の歴史について理解する ・交通バリアフリーの現状と課題を理解する ・歴史と関連付けながら、障害者基本法の変遷を説明することができる	太田
7	通年	障害児に対する支援を理解する	・障害児に対する福祉サービスの種類、問題を説明することができる ・医療的ケア児が直面する問題について理解する	太田
8	通年	就労支援を理解する	・そもそも「就労」とは何か、という意味を多角的に理解する ・働くことに対する価値観を、時代変化とともに理解する。 ・それらを踏まえながら就労支援とは何かを理解する	太田
9	通年	障害者雇用の現状と障害者雇用施策を理解する	・障害者の雇用・就労を取り巻く情勢を理解する ・障害者雇用率制度、職業リハビリテーションの実施体制について説明することができる	太田
10	通年	職業リハビリテーション機関の役割について理解する 合理的配慮の視点について理解する	・障害者職業センターや障害者就業・生活支援センターの取り組みを理解する ・障害者の権利について理解し、障害者差別解消法・障害者雇用促進法における合理的配慮について説明できる	太田
11	通年	障害者権利条約対日審査で指摘された日本の障害福祉の問題について理解する	・特別支援学校の現状を理解する。 ・日本における「インクルーシブ教育」と対日審査で指摘された問題点を理解する。	太田

		障害者の就労支援における課題を理解する	・ディーセントワークの視点を理解する ・就労支援現場で起きている「就労支援の質」に関する問題について説明できる	
12	通年	ピアサポートを理解する 事例検討	・障害分野のピアサポートの現状と課題について理解する。 ・事例を通してクライアントを多角的に捉えたとともに知識を結び付けて支援する視点を理解する	太田
13	通年	難病患者への支援	・難病患者への支援について説明することができる ・障害者福祉サービスにおける問題点について理解する	太田
14	通年	障害福祉に係る様々な法律を理解する 意思決定支援を理解する	・医療観察法について理解する ・触法障害者に関する現状と支援の課題について理解する ・障害当事者の意思決定支援について理解する	太田
15	通年	科目修了試験と解説		太田
成績評価方法		100 点満点（レポート 40%+科目試験 60%）		
準備学習など		特になし		
留意事項				

学科・年次	社会福祉科昼間課程 1 学年
科目名	児童・家庭福祉
担当者	佐々木将芳
単位数（時間数）	1 単位(30 時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	最新・社会福祉士養成講座 3「児童・家庭福祉」 社会福祉士養成講座編集委員会（編）中央法規出版

授業概要と目的
子ども家庭福祉が対象とする問題には何があるかを理解する。 子どもと家庭をめぐる問題に対して、理念や歴史をふまえその法制度の体系を理解する。 少子化や児童虐待などの課題および、インクルージョンやダイバーシティといった理念に基づく施策の実施状況や援助実践を理解する

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	現代社会と子ども家庭福祉の関係を理解する	子ども・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢を理解する	佐々木
2	通年	現代社会と子ども家庭福祉の関係を理解する	子ども・家庭の福祉需要とその実際を理解する	佐々木
3	通年	子ども家庭福祉の原理	子どもの定義を理解する 子どもの権利について理解し、説明できる	佐々木
4	通年	児童福祉の発展	子ども・家庭福祉制度の発展過程を理解する 子ども・家庭福祉における重要人物を列挙できる	佐々木
5	通年	子ども家庭福祉の法体系	児童福祉法の概要について理解する 児童福祉法が掲げる理念を説明できる	佐々木
6	通年	子ども家庭福祉の実施体制	国、都道府県、市町村の役割を理解する 家庭裁判所の役割を知る	佐々木
7	通年	子ども家庭福祉の実施体制	民生委員と児童委員の役割を理解する 子ども・家庭福祉制度における公私の役割関係を説明できる	佐々木
8	通年	児童相談所の役割を理解する	児童相談所の組織体系を理解する 児童相談所と市町村の連携を理解する	佐々木

9	通年	相談援助活動において必要となる子ども・家庭福祉制度や子ども・家庭福祉に係る他の法制度について理解する	児童虐待の防止等に関する法律の概要を理解する 児童虐待の背景を理解する 児童虐待の定義を説明できる	佐々木
10	通年	相談援助活動において必要となる子ども・家庭福祉制度や子ども・家庭福祉に係る他の法制度について理解する	社会的養護の体系について理解する 社会的養護の今後の方向性を説明できる	佐々木
11	通年	相談援助活動において必要となる子ども・家庭福祉制度や子ども・家庭福祉に係る他の法制度について理解する	母子並びに父子及び寡婦福祉法の概要を理解する ひとり親家庭への支援の課題を説明できる	佐々木
12	通年	相談援助活動において必要となる子ども・家庭福祉制度や子ども・家庭福祉に係る他の法制度について理解する	母子保健と障害児支援について理解する 保健・医療・福祉・教育の役割について説明できる	佐々木
13	通年	少子化対策と次世代育成支援について理解する	保育・子育て支援制度を理解する 児童健全育成について理解する	佐々木
14	通年	子ども・家庭福祉の専門職	保育士、児童指導員の役割を理解する 家庭支援専門相談員の役割を理解する 上記の専門職の違いと共通点を説明できる	佐々木
15	通年	子ども・家庭福祉制度における多職種連携を理解する	医療関係者との連携を理解する 学校等教育関係者との連携を理解する 労働施策関係者との連携を理解する	佐々木
成績評価方法		100 点満点（授業内課題 30%、科目試験 80%）		
準備学習など		できる限り新聞などで子ども家庭福祉に関する情報を収集するようにしましょう。		
留意事項		特になし		

学科・年次	社会福祉科（昼間課程）1 学年
科目名	貧困に対する支援
担当者	高山久志
単位数（時間数）	1 単位（30 時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	『最新・社会福祉養成講座 貧困に対する支援』日本ソーシャルワーク教育学校連盟（編）中央法規出版

授業概要と目的
・一般世帯と貧困世帯の生活状況の違いについて理解する。 ・現代のわが国の公的扶助制度について生活保護制度を中心に体系的に学習し、公的扶助制度の全体像を理解する。 ・低所得階に対する法制度について理解する。 ・相談援助活動において必要となる生活保護制度や生活保護制度に係る他の法制度について理解する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	貧困状態にある人と社会環境	・貧困状態にある人々の生活実態について理解する ・貧困がどのような形で現れるのかを説明できる	高山
2	通年	公的扶助概念と範囲について理解する	・公的扶助の概念を理解する ・公的扶助と社会保険の違いを説明できる	高山
3	通年	公的扶助の意義と役割について理解する	・セーフティネットの機能を説明できる ・ナショナルミニマムの機能を説明できる	高山
4	通年	生活保護制度仕組みについて理解する	・生活保護法の目的について理解する ・生活保護の原理・原則について理解する	高山
5	通年	生活保護制度仕組みについて理解する	・生活保護の種類と内容について理解する ・生活保護の種類を列記することができる	高山
6	通年	生活保護制度仕組みについて理解する	・実施機関と実施体制について理解する ・実施機関と実施体制について説明することができる	高山
7	通年	生活保護制度仕組みについて理解する	・被保護者の権利について理解する ・被保護者の義務について理解する ・被保護者の権利と義務について説明できる	高山

8	通年	生活保護制度仕組みについて理解する	・生活保護制度の不服申立てについて理解する ・不服申立制度について説明することができる	高山
9	通年	生活保護制度仕組みについて理解する	・生活保護制度の決定・実施について理解する ・決定・実施のプロセスについて説明することができる	高山
10	通年	生活保護制度における組織 及び団体の役割と実際について理解する	・福祉事務所の役割と実際について理解する ・生活保護制度における専門職の役割と実際について理解する ・他職種連携について理解する	高山
11	通年	低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際について理解する。	・生活保護の動向を理解する	高山
12	通年	低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際について理解する。	・生活保護の動向を理解する	高山
13	通年	低所得者対策について理解する	・生活困窮者自立支援法の概要を理解する ・生活福祉資金貸付制度について理解する	高山
14	通年	ホームレス対策について理解する	・ホームレス自立支援法の概要を理解する	高山
15	通年	当該科目の全体を振り返る	・試験と解説を実施する	高山
成績評価方法		100 点満点（小テスト 20%+科目試験 80%）		
準備学習など		特にありませんが、受講後しっかり復習していただければと思います。		
留意事項		特になし		

学科・年次	社会福祉科昼間課程 1 学年
科目名	保健医療と福祉
担当者	富田 晶子
単位数（時間数）	1 単位(30 時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	『最新・社会福祉士養成講座 保健医療と福祉』 中央法規出版 2021 年 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集

授業概要と目的
・医療ソーシャルワーカーの実務経験のあるものが、非常勤講師として、「相談援助において必要な医療保険制度や保健医療サービス」「保健医療サービスにおける専門職の役割と実際および多職種協働」等について講義する。 ・ソーシャルワーク実践において必要となる保健医療の動向を理解し、日本の保健医療に係る現状と課題を把握する。 ・保健医療に係る政策、制度、サービスについて理解し、医療給付のしくみを知る。 ・保健医療領域における社会福祉士の役割と、連携や協働について理解し、保健医療サービスの適切かつ効率的な提供を可能にする取り組み等を考察する。 ・保健医療サービスを提供する機関や専門職の機能を知り、保健医療の課題を持つ人に対する、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「オリエンテーション」 ・科目の概要と授業展開を把握する ・医療ソーシャルワークに関心をもつ	「本科目の学び方（国家試験用・実践用）」 ・科目受講時の記録や配布資料の活用・保管方法を計画する ・提示された場面をイメージし、仲間に自分の考えを伝える	富田
2	後期	「保健医療の課題をもつ人の理解」 ・疾患及びリスクのある人の理解、健康の定義、構成要素と意味の理解を深める ・生活者として捉える視点の重要性を理解する	「病者の理解」 ・疾病・障害と生活の関係、人生における 病の意味を捉え、病を持つことによって生じる諸問題を列挙する	富田

3	後期	「保健医療の課題をもつ人の理解」 ・現代の家族像を理解する ・疾病や障害が家族に与える影響、家族支援の視点を理解する ・医療における患者の権利、患者の自己決定権について理解する	「家族の理解」 ・変わりゆく家族のかたちを理解した上で、ソーシャルワーカーに求められる家族支援を具体化する 「患者の権利」 ・インフォームド・コンセントなど患者に自己決定権があり、患者の自律の時代へ移行していることを説明する ・患者が安心・安全に医療を受ける権利の実現に向けて、人的物的な環境整備が必要なことを具体的に述べる	富田
4	後期	「医療倫理」 ・医療倫理の4原則、患者の権利、対話、ナラティブなど、医療倫理の基礎を理解する	「医療倫理と倫理的課題」 ・保健医療に係る倫理を押さえ、生殖医療・移植医療・終末期医療等の倫理的概要の課題を推論する	富田
5	後期	「医療倫理」 ・意思決定支援の4モデルの特徴と違いを理解する	「患者の意思決定をめぐる課題」 ・ACPの概念を把握し、ADおよびPOLSTと比較する ・意思決定支援をめぐる諸課題を考察する	富田
6	後期	「保健医療の動向」 ・疾病構造とその経年的な動向について把握する ・疾病構造の変化に伴う、保健と社会の役割について理解する	「疾病構造の変化」 ・人口転換、疫学転換を知り、疾患ごとの経年的な動向を関係づける	富田
7	後期	「保健医療の動向」 ・在宅医療推進の背景と課題について理解する ・地域包括ケアシステムにおける医療機関の役割について理解する	「医療施設から在宅医療へ」 ・社会的入院について理解し、在宅医療の役割と課題について説明する 「保健医療における福祉的課題」 ・疾患や状況において特徴的な福祉的課題を把握して、保健医療における福祉的課題の重要性を具体的に述べる	富田
8	後期	「保健医療領域に必要な政策・制度およびサービスに関する知識」 ・保健医療の政策・制度の全体像を把握し、課題と方向性を理解する	「保健医療の政策・制度」 ・保健医療制度の体系と運営の仕組みを理解し、保健医療政策・制度の方向性を説明する 「保健医療サービスの提供体制」 ・医療法の概要を把握し、医療提供施設および在宅サービスを理解した上で、医療提供体制の整備や医療計画について関連づける	富田

9	後期	「保健医療領域に必要な政策・制度 およびサービスに関する知識」 ・医療費保障制度の体系を理解し、 社会保険、公費負担医療と無料低額 診療に関する基礎的知識を得る	「医療費の保障」 ・医療費保障制度の概要および診療報酬制度の 体系を知り、保健医療の隣接領域のさまざまな 政策・制度・サービスに関する基礎的 知識と その関係を述べる	富田
10	後期	「保健医療領域における専門職の役割 と連携」 ・連携する医療の専門職とチーム医療 およびチームのタイプによる特徴と 機能を理解し、連携に必要な知識を 学ぶ	「保健医療領域における専門職と院内連携」 ・組織としての特徴を把握し、関連機関におけ る多職種との連携・協働について説明する 「地域の関係機関との連携の実際」 ・医療を取り巻く社会環境を理解し、地域の関 係機関との連携の必要性を考察する ・医療機関で働くソーシャルワーカーが実践す る地域の関係機関との連携を述べる	富田
11	後期	「保健医療領域における専門職の役割 と連携」 ・医療機関におけるソーシャルワーカー が所属する部門の位置づけと、ケー ス発見・情報共有のしくみを学ぶ	「医療機関におけるソーシャルワーカーが 所属する部門の構築」 ・ソーシャルワーカーの組織における管理 体 制と実践を知る	富田
12	後期	「保健医療領域における支援の実際」 ・医療ソーシャルワーカー業務指針の 内容を理解する ・保健医療分野のソーシャルワーク 実践の歴史と動向について学ぶ	「保健医療領域におけるソーシャルワーカー の役割」 ・医療ソーシャルワーカーの業務指針の 沿 革、概要について理解し、医療や社会状況の変 化と保健医療分野のソーシャルワーク 実践 の関連について説明する	富田
13	後期	「保健医療領域における支援の実際」 ・ソーシャルワーカーがどのような 判断に基づき、どのような知識や技術 を活用しているのかを理解する	「保健医療領域における支援の実際」 ・保健医療領域の第一線で働く実践力の高いソ ーシャルワーカーの事例から、疾病およびその リスクのある人の理解を深める	富田
14	後期	まとめ ・出題の可能性が高い項目について 確認する	・事例問題で出題される場合も想定し、応用方 法を含めた知識を修得する	富田
15	後期	試験と解説	試験 60 分、解説	富田
成績評価方法		試験		
準備学習		授業前にシラバスを確認して、到達目標を意識して受講をしてください。		
留意事項				

学科・年次	社会福祉科昼間課程 1 学年
科目名	権利擁護を支える法制度
担当者	市川知律
単位数（時間数）	1 単位(30 時間)
学習方法	講義及び演習
教科書・参考書	『最新・社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 第9巻 権利擁護を支える法制度』 中央法規出版 2021 年 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 その他、講師の準備する資料を内容に応じ使用する。

授業概要と目的
「一定の利益を請求し、主張し、享受することができる法律上正当に認められたもの」としての権利を護り、適切に行 使できるようその支援を必要とする人々に適切に提供できるようになることを目指し、多職種との連携も含め体系的 に学ぶ。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	「ソーシャルワークと法のかか わり 1」 権利擁護に必要な法制度 憲法 行政法	・ 憲法における権利擁護と保証されるべき 人権や自由、幸福追求権について理解す る ・ 行政行為と行政事件訴訟、国家賠償法を 理解する。	市川
2	通年	「ソーシャルワークと法のかか わり 2」 民法	・ 民法の構成と法の特性、総則、物件、債 権契約等を理解する ・ 家族法（親族、相続）について理解する とともに事例を通じてその実務を理解す る。	市川
3	通年	「法の基礎 1」 法の規範と体系 法の基礎知識	ソーシャルワーカーの基礎知識としての社 会規範の特性と規範相互のかんけいについ て理解する	市川
4	通年	「法の基礎 2」 福祉関係の判例	虐待、権利擁護関係の様々な判例を読み解 き、法の具体的な運用の理解をする。	市川
5	通年	「権利擁護の意義と支える仕組 み 1」 権利擁護の意義と福祉サービス	サービスの関連法のみならず、消費者被害 や債務整理など、相談援助の場面で必要と なる知識やコンプライアンスを理解する。	市川

6	通年	「権利擁護の意義と支える仕組み 2」 虐待防止と差別解消	高齢者・障害者・児童、DV など家族等に起こりがちな虐待に関して具体的に理解する。	市川
7	通年	「意思決定支援 1」 意思決定支援の概要と諸外国の実態	意思決定支援の概要を正しく理解するとともに、イギリスの意思能力法から代行決定についての原則を理解する。	市川
8	通年	「意思決定支援 2」 意思決定支援の実際（演習）	講師の事例をもとに、意思決定支援の自洗を学び、その難しさを体感する。	市川
9	通年	「意思決定支援 3」 意思決定支援の実際（演習）	講師の事例をもとに、意思決定支援の自洗を学び、その難しさを体感する。	市川
11	通年	「権利擁護にかかわる諸団体等」 弁護士会、司法書士会、社協、家裁の理解	権利擁護の実践をするソーシャルワーカーとして連携していく社会資源と専門職を正しく理解し、協働するイメージを持つ	市川
12	通年	「成年後見制度について 1」 制度の概要の理解	成年後見制度を正確に理解する。	市川
13	通年	「成年後見制度について 2」 申立様式を理解し、作成できるようになる	講師の事例をもとに、相談援助から実際の家庭裁判所の各種様式を作成する。	市川
14	通年	「成年後見制度について 3」 申立様式の理解と申し立て支援の理解	講師の事例をもとに、相談援助から実際の家庭裁判所の各種様式を作成する。	市川
15	通年	終講試験とまとめ	権利擁護と成年後見制度の理解についての習熟度を問う。	市川
成績評価方法		100 点満点（科目試験 80%＋授業態度 20%）		
準備学習など		法律用語辞典を事前購入しておくことが望ましい。（出版社は問わない）		
留意事項				

学科・年次	社会福祉科昼間課程 1 学年
科目名	刑事司法と福祉
担当者	泊 裕子
単位数（時間数）	1 単位(30 時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	『最新・社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 10 刑事司法と福祉』第2版 中央法規出版 2025 年 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集

授業概要と目的
① 刑事司法の近年の動向と制度の仕組みを体系的に学びながら、社会における処遇の全般を理解する。 ② 刑事司法における福祉専門職者の役割と取り組みのあり方について理解する。 ③ 刑事司法の制度に関わる関係機関等の役割とネットワーク構築について理解する。 ④ 刑事司法における福祉的支援のあり方についてライフステージや BPS モデル（生物・心理・社会）などの視点から理解する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	刑事司法制度の概要と福祉の全般について理解する	・ 刑事司法における制度の全体を理解する	泊
2	前期	日本社会における犯罪について理解する	・ 日本の犯罪について理解する ・ 刑事施設の現状について理解する	泊
3	前期	犯罪原因について社会的背景と現状の対策について理解する	・ 犯罪の社会的背景について理解する ・ 福祉的観点に基づく支援を理解する	泊
4	前期	刑罰とは何かを理解する	・ 制度における刑罰を理解する ・ 刑罰の歴史を理解する ・ 現状の刑罰について理解する	泊
5	前期	刑事司法の手続きについて理解する	・ 刑事手続きにおける処遇について理解する	泊
6	前期	少年犯罪の司法について理解する	・ 少年法について理解する	泊
7	前期	成人の刑事施設の施設内処遇について理解する	・ 再犯予防の観点における施設内処遇を理解する ・ 地域生活に向けた支援の在り方について理解する	泊

8	後期	少年犯罪における施設内処遇について理解する	・少年に対する施設内処遇の特徴について理解する ・再犯予防の観点における施設内処遇を理解する	泊
9	後期	更生保護の理念と概要について理解する	・更生保護について理解する ・福祉的観点に基づく支援について理解する	泊
10	後期	社会内処遇の実際について理解する	・関係機関におけるネットワークの現状を理解する	泊
11	後期	医療観察制度について理解する	・制度の概要について理解する ・精神疾患の概要について理解する	泊
12	後期	高齢者・障害者による犯罪について理解する	・犯罪の特徴と傾向について理解する ・支援の実際と課題について理解する	泊
13	後期	アディクションを抱える人と刑事司法について理解する	・アディクションについて理解する ・その治療と回復について理解する	泊
14	後期	犯罪被害者等支援の概要と現状について理解する	・犯罪被害者について理解する ・現状の取り組みについて理解する	泊
15	後期	地域における刑事司法の取り組みについて理解する 科目試験	・関係する公的組織及び民間団体との連携及び協調について理解する	泊
成績評価方法		100点満点（科目試験 100%）		
準備学習など		刑事司法に関する事件報道の中で自分なりに福祉的支援を考察する		
留意事項		刑事司法に関連する法令等の改廃について配意する		

学科・年次	社会福祉科（昼間課程）1 学年
科目名	ソーシャルワーク演習
担当者	高山久志 成田暢代 鈴木雄太 渡邊真梨子 檜垣道隆
単位数（時間数）	1 単位（30 時間）
学習方法	演習 講義 フィールドワーク
教科書・参考書	社会福祉士の倫理綱領[配布] また、講義時に適宜紹介する

授業概要と目的
【共通】ソーシャルワーク学習をはじめていくにあたって基礎となる項目について、知識学習および演習として他者との関わり、体験・体感を通じて理解を深めていく。ここで得られる知識や感覚を個々のベース(礎)として、そのうえにあらゆる科目で得られる知識等を積み上げていくことが望ましい。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「SW の基盤づくり」 ・ SW 演習科目の概要と目的を知る。 【講義】	「演習オリエンテーション」 ・ SW 演習科目で今後行う学習についてイメージし、記述できる。 《感想用紙にて確認》	高山、成田、鈴木、渡邊、檜垣
2	前期	「自己覚知と他者理解」 ・ 体験的に自己理解を深める。 ・ 他者の声に耳を傾け、理解する。 【演習】	「自己理解～自分の表現」 ・ 自己理解をもとに自分を表現し、意図を他者に説明できる。 《発表にて確認》	高山、成田、鈴木、渡邊、檜垣
3	前期	「自己覚知と他者理解」 ・ 自己覚知の意味と必要性を理解する。 【講義】 ・ 体験的に自己理解を深める。 ・ 他者の声に耳を傾け、理解する。 【演習】	「自己覚知の理解」 ・ 自己覚知の必要性について記述できる。 「自己理解～自分のお気に入り」 ・ 自己理解を深めて意識化し、意図を他者に伝えることができる。 ・ 他者の表現を肯定的に受け止め、関係形成への一歩とすることができる。 《感想用紙にて確認》	高山、成田、鈴木、渡邊、檜垣
4	前期	「SW の基盤づくり」 ・ フィールドワークのイメージを形成する。 ・ 目的や注意点を意識化する。 【講義】	「フィールドワークオリエンテーション」 ・ 自らがフィールドワークで学ぶべきことについて説明できる。	高山、成田、鈴木、渡邊、檜垣

5	前期	「自己覚知と他者理解」 ・体験的に自己覚知を深める。 ・自他の価値観の違いを認識する。 【演習】	「価値観の違いの理解①」 ・自分のものの見方や価値観を意識化し、その傾向を述べることができる。 ・自他の違いを認識し、他者の価値観も肯定することができる。 《感想用紙にて確認》	高山、成田、鈴木、渡邊、檜垣
6	前期	「専門職倫理」 ・SW の価値・倫理について理解する。 【演習】	「SW の価値・倫理の理解①」 ・SW が専門職たる意義について説明できる。 《感想用紙にて確認》	高山、成田、鈴木、渡邊、檜垣
7	前期	「SW とコミュニケーション」 ・SW におけるコミュニケーションとは何かを理解する。 ・コミュニケーションに関する自己覚知を深める。 【講義・演習】	「SW におけるコミュニケーション①」 ・SW におけるコミュニケーションとは何かについて、自分なりに記載することができる。 ・自分のコミュニケーションの傾向を自覚し、記述できる。 《ワークシート・発表にて確認》	高山、成田、鈴木、渡邊、檜垣
8	前期	「SW とコミュニケーション」 ・“きく” ことについて理解する。 【講義・演習】	「SW におけるコミュニケーション②」 ・きく姿勢、態度に関するポイントを自覚し、表現できる。 《ワークシート・発表にて確認》	高山、成田、鈴木、渡邊、檜垣
9～10	前期	「自己覚知と他者理解」 ・体験的に自己覚知を深める。 ・自他の価値観の違いを認識する。 【演習】	「価値観の違いの理解②」 ・自分のものの見方や価値観を意識化し、その傾向を述べることができる。 ・自他の違いを認識し、他者の価値観も肯定することができる。 《感想用紙にて確認》	高山、成田、鈴木、渡邊、檜垣
11	前期	「SW の基盤づくり」 ・精神保健福祉士について理解する。 【講義・演習】	「SW に必要な基礎知識②～精神保健福祉士」 ・MHSW について説明することができる。 《感想用紙にて確認》	岸田
12	前期	「SW とコミュニケーション」 ・傾聴とは何かを理解する。 【講義・演習・映像教材】	「SW におけるコミュニケーション③」 ・傾聴に必要なポイントを自覚し、記述できる。 《ワークシート・発表にて確認》	高山、成田、鈴木、渡邊、檜垣
13	前期	「SW とコミュニケーション」 ・重度障害者のコミュニケーションについて理解を深める。 【演習】	「SW におけるコミュニケーション④」 ・重度障害者とのコミュニケーションについてイメージできる。 《感想用紙にて確認》	高山、成田、鈴木、渡邊、檜垣
14～15	前期	「SW とコミュニケーション」 ・SW におけるコミュニケーションとは何かを理解する。	「SW におけるコミュニケーション⑤」 ・高齢者介護におけるリアルな視点を知る。	高山、成田、鈴木、渡邊、檜垣

		・コミュニケーションの材料として、高齢者が生きてきた時代を知る。 【講義・演習】	・高齢者が生きてきた時代背景を理解し、グループで共有することができる。 《ワークシート・発表にて確認》	
成績評価方法	・演習への参加態度（出席、グループワーク・発表など） ・コメントペーパーやレポート等の提出物の有無および記載内容 これらを踏まえて総合的に評価する。 ※科目試験はない			
準備学習など	・適宜、社会福祉士の倫理綱領に目を通し、ソーシャルワーカーに必要な価値観、考え方を意識するようにしてください。 ・ソーシャルワークを行ううえでは、福祉分野のみならず、社会情勢や政治、経済、地域のニュースなど、あらゆる動向について <u>多面的な視点で認識していく姿勢</u> が求められます。普段の生活のなかでも常にアンテナを張り、 <u>一元的な視点に終始しないよう意識して物事を見るよう</u> にしてください。			

学科・年次	社会福祉科（昼間課程）1 学年
科目名	ソーシャルワーク演習（専門）
担当者	高山久志 成田暢代 鈴木雄太 中上純二 渡邊真梨子 檜垣道隆
単位数（時間数）	4 単位（120 時間）
学習方法	演習 講義 フィールドワーク
教科書・参考書	社会福祉士の倫理綱領[配布] また、講義時に適宜紹介する

授業概要と目的
【社会専門】前半(実習前)は、ソーシャルワーク実習に臨む前段階に理解すべき価値・倫理など、対人援助専門職(ソーシャルワーカー)としての基盤づくりを目的とする。 主に、①自己覚知と他者理解(自分への気づきと他者のちがいの認識)、②コミュニケーション(他者との関わりと面接技法)、③ソーシャルワークの基本的展開過程(情報収集と記録の技法、アセスメント・プランニング等)、④相談援助現場の実際の理解(フィールドワーク等)を中心に、各教員の実務経験(高齢、病院、障害児・者等)を踏まえながら、体験的な学びを展開していく。 いずれの場面でも主体的に参加することで体感し、それを言語化および他者と共有することによって、ソーシャルワークの基本的能力を習得していくことを期待している。

後半(実習後)には、ソーシャルワーク実習および実務経験上での相談援助に係る知識と技術について、個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得していくことを目的とする。

①利用者の思いやニーズを理解する、②社会福祉施設の役割やあり方を理解する、③ソーシャルワーク援助技術の多様な事例を理解する、④多層的なソーシャルワーク視点を理解する、

これらを展開するなかで、ソーシャルワーク実習や実務経験上の体験を言語化し、他者と共有することによって、ソーシャルワークを多面的、重層的に捉えて、より実践的な能力を習得していくことを期待している。

なお、社会福祉士として、福祉事業所等で現場経験のあるものが、その経験を活かし講義を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
前期 《実習前》				
1	前期	「自己覚知と他者理解」 ・体験的に自己覚知を深める。 ・ストレングス視点を理解する。 【演習】	「ストレングス視点の理解①～リフレーミング」 ・ワークシートにて、リフレーミングできる。 《ワークシートにて確認》	高山、成田、鈴木、渡邊、檜垣
2	前期	「SWの基盤づくり」 ・“支援”の考え方の柔軟性について柔軟に理解する。 【講義・演習】	「SWに必要な基礎知識①～支援観」 ・支援の多様性を意識し、イメージすることができる。 《感想用紙にて確認》	高山、成田、鈴木、渡邊、檜垣
3~6	前期	「実践に触れる」 ・実践現場(社会福祉法人)を体感する。 ・法人組織(メゾレベル)の実際を知る。 【フィールドワーク】	「フィールドワーク①～社会福祉法人」 ・社会福祉法人を組織として見学し、感じた感覚や触れた想いについて記述できる。 《感想用紙にて確認》	高山、成田、鈴木、渡邊、檜垣
7~10	前期	「実践に触れる」 ・地域社会資源について理解する。 【フィールドワーク】	「フィールドワーク②～地域社会資源調査」 ・社会資源について調査し、報告書にまとめることができる。 《報告書にて確認》	高山、成田、鈴木、渡邊、檜垣
11	前期	「SWの基盤づくり」 ・ライフヒストリーについて理解する。 【講義・演習】	「ライフヒストリーとSW」 ・ライフヒストリーについてイメージできる。 《感想用紙にて確認》	高山、成田、鈴木、渡邊、檜垣
12	前期	「自己覚知と他者理解」 ・体験的に自己覚知を深める。 ・ストレングス視点を理解する。 【演習】	「ストレングス視点の理解②～他者紹介」 ・ストレングス視点にて他者紹介をすることができる。 《ワークシート・発表にて確認》	高山、成田、鈴木、渡邊、檜垣

13	前期	「自己覚知と他者理解」 ・自己承認と自分自身のストレングスに気付く。 【講義・演習】	「ストレングス視点の理解③～自己承認・自分自身のストレングスの気付き」 ・自分自身のストレングスに気付く、自己承認することができる。 《感想用紙にて確認》	高山、成田、鈴木、渡邊、檜垣
14	前期	「SWの基盤づくり」 ・レクリエーション体験。 【演習】	「利用者視点で理解するレクリエーション体験」 ・レクリエーション体験を通して、利用者視点を理解する。 《感想用紙にて確認》	高山、成田、鈴木、渡邊、檜垣
15~16	前期	「SWに必要な基礎知識」 ・障害特性について理解する。 【講義】	「障害特性の理解」 ・障害福祉サービス事業所における利用者をイメージでき、障害名および障害特性を説明することができる。 《感想用紙にて確認》	高山、成田、鈴木、渡邊、檜垣
17~18	前期	「SWの展開」 ・インテーク、アセスメントについて理解する。 【講義・演習】	「SWにおけるアセスメント・プランニング①」 ・SWの展開について説明できる。 ・アセスメントの概要について記述できる。 《ワークシート・感想用紙にて確認》	高山、成田、鈴木、渡邊、檜垣
19~20 (23~24 同一)	前期	「SWの基盤づくり」 ・SWマインドの継続的な涵養について理解する。 ・自己覚知を深め、それを表現する。 【演習】	「SWマインドの涵養」 ・自分を形成してきたものを振り返り、自分の言葉で表現することができる。 ・SWマインドとは何か理解して、記述できる。 《発表にて確認》	高山、成田、鈴木、渡邊、檜垣
21~22	前期	「SWの展開」 ・プランニングについて理解する。 【講義・演習】	「SWにおけるアセスメント・プランニング②」 ・SWの展開について説明できる。 ・プランニング(個別支援計画)について記述できる。 《ワークシート・感想用紙にて確認》	高山、成田、鈴木、渡邊、檜垣
25	前期	「SWの展開」 ・情報収集の方法、記録の方法について理解する。 【演習】	「情報収集と記録の方法」 ・情報収集および記録の方法について説明できる。 ・実習時に必要な記録と関連させて説明できる。 《ワークシートにて確認》	高山、成田、鈴木、渡邊、檜垣
26	前期	「SWの展開」 ・アセスメント(環境)について理解する。 【講義・演習】	「SWにおけるアセスメント・プランニング③～自己環境マップ」 ・SWの展開について説明できる。	高山、成田、鈴木、渡邊、檜垣

			・アセスメント(自己環境マップ)として、対象を立体的に捉えることができる。 《ワークシートにて確認》	
27～28	前期	「SWの基盤づくり」 ・施設コンフリクトについて理解する。 【演習】	「施設コンフリクトとソーシャルワーク」 ・ロールプレイを通して、実践的に場面での思考について検討することができる。 《感想用紙にて確認》	高山、成田、鈴木、渡邊、檜垣
29	前期	「SWの基盤づくり」 ・相談援助場面を想定したロールプレイを通して、SWの方法を具体的に理解する。 【演習】	「相談援助場面考察」 ・ロールプレイを通して、実践的に場面でのふるまいを体现できる。 《感想用紙にて確認》	高山、成田、鈴木、渡邊、檜垣
30～31	前期	「SWの基盤づくり」 ・他専門職を知る。 ・多職種連携へのヒントにする。 【ゲスト】	「SWと他職種連携」 ・他学科学生との交流を通して、他専門職の背景についてイメージ化できる。 《感想用紙にて確認》	高山、成田、鈴木、渡邊、檜垣
32	前期	「SWの展開」 ・SW実践におけるキーワードについて再認識、理解する。 【講義】	「実践キーワードの理解」 ・実践で活用するキーワードの意味や意図を再認識し、それぞれについて説明できる。 《感想用紙にて確認》	高山、成田、鈴木、渡邊、檜垣
33	前期	「社会福祉士実践の実際・事例」 ・企画運営におけるアセスメントとプランニングの実践を理解する。 【演習】	「交流会の企画運営」 ・企画運営に携わる一員として参加、アイデアの表出、協働ができる。 《GW・感想用紙にて確認》	高山、成田、鈴木、渡邊、檜垣
34	前期	「SWの基盤づくり」 ・実習で学ぶべきことを理解する。 【演習】	「実習意気込み発表会」 ・実習で学びたいことを表明できる。 ・他者の狙いから、自分自身のイメージも深め、それを記述できる。 《発表、感想用紙にて確認》	高山、成田、鈴木、渡邊、檜垣
後期 《実習後》				
35	後期	「社会福祉士実践の実際」 ・企画運営におけるアセスメントとプランニングの実践を理解する。 【演習】	「交流会の企画運営」 ・企画運営に携わる一員として参加、アイデアの表出、協働ができる。 《GW・感想用紙にて確認》	高山、成田、鈴木、渡邊、檜垣

36	後期	「SW 実践の実際・事例～社会福祉現場で用いられている SW 援助技術事例」 ・SW におけるインテーク、信頼関係の形成について理解する。 【演習】	「インテーク」 ・マイクロレベルでのアプローチ(特にインテーク、信頼関係)について、自己の経験や周囲から得たアドバイスを説明できる。 《感想用紙にて確認》	高山、成田、鈴木、渡邊、檜垣
37	後期	「SW 実践の実際・事例～社会福祉現場で用いられている SW 援助技術事例」 ・SW におけるアセスメントおよびプランニングについて理解する。 【演習】	「アセスメント、プランニング、モニタリング」 ・マイクロレベルでのアプローチ(特にアセスメントおよびプランニング)について、自己の経験や周囲から得たアドバイスを説明できる。 ・他者の経験を通して知ったプランニングについての実際を、種別や SW の共通性として整理・認識し、記述できる。 《感想用紙にて確認》	高山、成田、鈴木、渡邊、檜垣
38	後期	「SW 実践の実際・事例～社会福祉現場で用いられている SW 援助技術事例」 ・SW におけるチームアプローチおよび連携(グループ、組織内、法人内)について理解する。 【演習】	「チームアプローチ、連携(グループ、組織内、法人内)」 ・チームや組織レベルの支援の実際について、自己の経験や周囲から得たアドバイスを説明できる。 ・他者の経験を通して知ったチームアプローチについての実際を、種別や SW の共通性として整理・認識し、記述できる。 「ネットワーキング(組織間、地域、多職種)」 ・組織、地域、職種間での支援の実際やその形成方法について、自己の経験や周囲から得たアドバイスを説明できる。 ・他者の経験を通して知ったネットワーキングについての実際を、種別や SW の共通性として整理・認識し、記述できる。 《感想用紙にて確認》	高山、成田、鈴木、渡邊、檜垣
39	後期	「SW 実践の実際・事例～社会福祉現場で用いられている SW 援助技術事例」 ・SW におけるアウトリーチについて理解する。 ・利用者ニーズ(思い)と社会資源との関係について理解する。	「アウトリーチとニーズ把握」 ・ニーズと資源の関係性および社会資源の役割を説明できる。 ・アウトリーチのあり方、具体的取り組みについて説明できる。 《感想用紙にて確認》	高山、成田、鈴木、渡邊、檜垣

		・アウトリーチのあり方、具体的取り組みについて理解する。 【演習】		
40	後期	「実践に触れる」 ・ゲスト講師の話から SW 実践の一例を理解する。 ・実践の実際を知り、自分自身の社会福祉士像の形成につなげる。 【ゲスト】	「ゲスト講義～SW のキャリア形成」 ・ゲストの話を聴き、自分自身について検討、イメージ化できる。 《感想用紙にて確認》	高山、成田、鈴木、渡邊、檜垣
41～42 (45)	後期	「社会福祉現場と地域福祉」 ・社会資源の調整、開発について理解する。 【演習】	「社会資源の調整と開発」 ・利用者ニーズー地域ー社会資源の関連を意識して、新たな社会資源の開発について検討できる。 ・多角的な視点からアイデアを他者と共有し、グループワークをすすめることができる。 《感想用紙にて確認》	高山、成田、鈴木、渡邊、檜垣
43～44	後期	「SW 実践の実際・事例」 ・実践事例を通して SW の理解を深める。 【演習】	「事例検討①」 ・事例に対して多面的に捉えながら他者と検討することができる。 《GW・感想用紙にて確認》	高山、成田、鈴木、渡邊、檜垣
46～47	後期	「社会福祉現場と地域福祉」 ・社会資源の開発について理解する。 【演習】	「社会資源の開発」 ・グループワークで構築したアイデアを発表することができる。 ・自他の発表から社会資源開発について SW の共通性として整理・認識し、記述できる。 《発表・感想用紙にて確認》	高山、成田、鈴木、渡邊、檜垣
48～49	後期	「SW 実践の実際・事例」 ・実践事例を通して SW の理解を深める。 【演習】	「事例検討②」 ・事例に対して多面的に捉えながら他者と検討することができる。 《GW・感想用紙にて確認》	高山、成田、鈴木、渡邊、檜垣
50	後期	「SW 実践の実際・事例」 ・実践事例を通して SW の理解を深める。 【演習】	「ゲスト講義～介助犬とユーザーの暮らしの理解」 ・ゲストの話を聴き、自分自身について検討、イメージ化できる。 《感想用紙にて確認》	高山、成田、鈴木、渡邊、檜垣

51~52	後期	「SW 実践の実際・事例」 ・実践事例を通して SW の理解を深める。 【演習】	「事例検討③」 ・事例に対して多面的に捉えながら他者と検討することができる。 《GW・感想用紙にて確認》	高山、成田、鈴木、渡邊、檜垣
53~57	後期	「社会福祉士実践の実際」 ・企画運営におけるアセスメントとプランニングの実践を理解する。 ・実践の実際を知り、自分自身の社会福祉士像の形成につなげる。 【演習】	「交流会の企画運営」 ・企画運営に携わる一員として参加、アイデアの表出、協働ができる。 ・学生時代の学び、実践経験についての語りを受け、自分自身について検討、イメージ化できる。 ⇒社会福祉士へ至る道筋、社会福祉士像について明記できる。 《GW・感想用紙にて確認》	高山、成田、鈴木、渡邊、檜垣
58~59	後期	「SW 実践の実際・事例」 ・実践事例を通して SW の理解を深める。 【演習】	「事例検討④」 ・事例に対して多面的に捉えながら他者と検討することができる。 《GW・感想用紙にて確認》	高山、成田、鈴木、渡邊、檜垣
60	後期	「専門職倫理」 ・SW の専門職倫理について理解する。 ・SW マインドの継続的な涵養について理解する。 ・レポート作成を通して、自分の今後へ活かすイメージを持つ。 【演習・レポート作成】	「SW の価値・倫理の理解②」 ・めざす SW 像に向けた道筋について具体的にイメージし、自分の言葉で思いを記述することができる。 《GW・レポート提出にて確認》	高山、成田、鈴木、渡邊、檜垣
成績評価方法		・演習への参加態度（出席、グループワーク・発表など） ・コメントペーパーやレポート等の提出物の有無および記載内容 これらを踏まえて総合的に評価する。 ※科目試験はない		
準備学習など		・適宜、社会福祉士の倫理綱領に目を通し、ソーシャルワーカーに必要な価値観、考え方を意識するようにしてください。 ・ソーシャルワークを行ううえでは、福祉分野のみならず、社会情勢や政治、経済、地域のニュースなど、あらゆる動向について<u>多面的な視点で認識していく姿勢</u>が求められます。普段の生活のなかでも常にアンテナを張り、<u>一元的な視点に終始しないよう意識して物事を見るよう</u>にしてください。		

学科・年次	社会福祉科（昼間課程）1 学年
科目名	ソーシャルワーク実習指導
担当者	成田暢代 高山久志 鈴木雄太 渡邊真梨子 檜垣道隆
単位数（時間数）	3 単位（90 時間）
学習方法	講義 演習 フィールドワーク 個別指導
教科書・参考書	※必須とはしない [参考]『ソーシャルワークを学ぶ人のための相談援助実習』中央法規出版 『社会福祉士の倫理綱領』および講義時に適宜紹介する

授業概要と目的
実習指導は、実習前、実習中、実習後に大別されます。 実習前は講義形式で実習の意義や目的を確認し、実習先の決定を行います。その後、実習計画書の作成を個別に指導します。実習中は、帰校指導や巡回による指導を行い、実習後には実習報告書の作成を個別に指導し、全体の報告会を行います。なお、社会福祉士として、福祉事業所等で現場経験のあるものが、その経験を活かし講義を行います。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1～2	前期	「ソーシャルワーク実習の概要把握」 ・ソーシャルワーク実習の目的と概要を理解する。 【講義】	「実習オリエンテーション」 ・実習のスケジュールを把握するとともに、実習先選択のイメージを持ち、説明することができる。 《感想用紙にて確認》	成田、高山、鈴木、渡邊、檜垣
3	前期	「実習ガイダンス～報告会より」 ・卒業生の話を聞き、ソーシャルワーク実習についてのイメージを深める。 【講義】	「実習についてイメージを深める」 ・実習経験者の話を聞き、実習に向けた自分の思いや想定に引き寄せて感想を記載することができる。 《感想用紙にて確認》	成田、高山、鈴木、渡邊、檜垣
4～7	前期	「実践現場を知る」 ・生活施設体験実習に臨み、施設利用者/職員の思いや様子、施設の役割について理解する。 【フィールドワーク】	「生活施設体験実習(障害・高齢)」 ・施設利用者の生活や思いを知り、職員の対応について説明できる。 ・実践に身を置くことで得られた感覚について、報告書に記載することができる。 《生活施設体験実習報告書にて確認》	成田、高山、鈴木、渡邊、檜垣
8～11	前期	「実践現場を知る」	「車いす体験実習(身体障害)」 ・身体障害当事者の生活や思いを知り、職員の対応について説明できる。	成田、高山、鈴木、渡邊、檜垣

		・車いす体験実習に臨み、身体障害当事者/職員の思いや様子、施設の役割について理解する。 【フィールドワーク】	・自らが車いすを体験することで得られた感覚について、報告書に記載することができる。 《車いす体験実習報告書にて確認》	
12	前期	「事前学習と記録」 ・実習の目的、意義、学びたいことを明確化する。 ・実習計画書の概要、書き方、事前学習、実習記録の記載について理解する。 【講義】	「実習計画書/記録の書き方」 ・実習計画書の書き方を知り、実際に作成をスタートさせることができる。 《実習計画原案にて確認》	成田、高山、鈴木、渡邊、檜垣
13～16	前期	「実践現場を知る」 ・ソーシャルワーク実習を行う施設にてプレ実習を行い、利用者/職員の概要や施設の役割を理解する。 【フィールドワーク】	「プレ実習」 ・実習先施設の概要(利用者、職員、施設)を把握するとともに、実習までに必要な知識や学習すべきポイントを把握し、説明できる。 《プレ実習報告書にて確認》	成田、高山、鈴木、渡邊、檜垣
17～18	前期	「事前学習と実習準備」 ・24日間実習計画書の作成や事前学習について概要を理解し、作成を進めていく。 【講義】【個別指導】	「24日間実習計画書/事前学習の完成」 ・概要を把握したうえで、随時、教員の個別指導を受け、実習計画書、事前学習の完成、事前訪問の準備および実施を遂行させることができる。 《実習計画書/事前学習の適宜提出、事前訪問報告書にて確認》	成田、高山、鈴木、渡邊、檜垣
19	前期	「実習事前学習」 ・実習日誌の書き方と記録について理解する。 【講義】	「実習日誌の書き方と記録」 ・実習日誌の書き方および関連する記録の方法について説明できる。 《ワークシートにて確認》	成田、高山、鈴木、渡邊、檜垣
20	前期	「事前学習と実習準備」 ・8日間実習計画書の作成や事前学習について概要を理解し、作成を進めていく。 【講義】【個別指導】	「8日間実習計画書/事前学習の完成」 ・概要を把握したうえで、随時、教員の個別指導を受け、実習計画書、事前学習の完成、事前訪問の準備および実施を遂行させることができる。 《実習計画書/事前学習の適宜提出、事前訪問報告書にて確認》	成田、高山、鈴木、渡邊、檜垣
21	前期	「社会福祉士実践の実際・事例」 ・はじめて身を置くSW実践(実習)での意識や注意点について理解する。 【演習】	「実践(実習)における注意点」 ・実践で意識すべきことについて説明できる。 《感想用紙にて確認》	成田、高山、鈴木、渡邊、檜垣

22	前期	「社会福祉士実践の実際・事例」 ・相談援助場面を想定したロールプレイを通して、SWの方法を具体的に理解する。 【演習】	「相談援助場面考察～不安と期待」 ・ロールプレイを通して、実践的に場面でのふるまいを体験できる。 《感想用紙にて確認》	成田、高山、鈴木、渡邊、檜垣
23	通年	「事中学習」 ・実習期間中に実習施設において、教員が学生に実習に関する個別指導を行う。 【個別指導】	「実習巡回指導《1回目》」 ・実習自己評価票、実習日誌等をもとに、相談援助実習の状況を教員に説明することができる。 ・教員の助言を受けて、翌日以降の実習に反映させることができる。 《実習日誌、実習自己評価票にて確認》	成田、高山、鈴木、渡邊、檜垣
24～25	通年	「事中学習」 ・実習期間中に学校へ登校し、実習状況や学びについて他実習生や教員へ共有し、理解を深める。 【演習】	「実習帰校指導」 ・実習状況について、他実習生や教員に状況を説明することができる。 ・他実習生や教員の助言を受けて、翌日以降の実習に反映させることができる。 《感想用紙、実習日誌にて確認》	成田、高山、鈴木、渡邊、檜垣
26	通年	「事中学習」 ・実習期間中に実習施設において、教員が学生に実習に関する個別指導を行う。 【個別指導】	「実習巡回指導《2回目》」 ・実習自己評価票、実習日誌等をもとに、相談援助実習の状況を教員に説明することができる。 ・教員の助言を受けて、翌日以降の実習に反映させることができる。 《実習日誌、実習自己評価票にて確認》	成田、高山、鈴木、渡邊、檜垣
27～28	通年	「事中学習」 ・実習期間中に学校へ登校し、実習状況や学びについて他実習生や教員へ共有し、理解を深める。 【演習】	「実習帰校指導」 ・実習状況について、他実習生や教員に状況を説明することができる。 ・他実習生や教員の助言を受けて、翌日以降の実習に反映させることができる。 《感想用紙、実習日誌にて確認》	成田、高山、鈴木、渡邊、檜垣
29	通年	「事中学習」 ・実習期間中に実習施設において、教員が学生に実習に関する個別指導を行う。 【個別指導】	「8日間実習巡回指導《1回のみ》」 ・実習自己評価票、実習日誌等をもとに、相談援助実習の状況を教員に説明することができる。 ・教員の助言を受けて、翌日以降の実習に反映させることができる。 《実習日誌、実習自己評価票にて確認》	成田、高山、鈴木、渡邊、檜垣

30～31	後期	「事後学習」 ・SW 実習で得られた経験について、種別や相談援助としての学びとして一般化、深化させて理解することができる。 【個別指導】	「実習報告書/事後学習」 ・随時、教員の個別指導を受け、実習報告書、事後学習関係書類を完成させることができる。 《実習報告書/事後学習関係書類の適宜提出》	成田、高山、鈴木、渡邊、檜垣
32～34	後期	「SW 実践の実際・事例」 ・SW 実習における利用者、職員の状況や思いを振り返り整理する。 ・自他の経験を通して、社会福祉現場の多様な実状を知り、理解する。 【演習】	「社会福祉現場の実状と利用者・職員理解」 ・自己の得た体験にもとづく「現場の声」を整理し、他者に説明できる。 ・他者の経験を通して知った「現場の声」を、種別や SW の課題として整理・認識し、記述できる。 《感想用紙にて確認》	成田、高山、鈴木、渡邊、檜垣
35	後期	「事後学習」 ・SW 実習で得られた経験について、種別や相談援助としての学びとして一般化、深化させて理解することができる。 【個別指導】	「実習報告書/事後学習」 ・随時、教員の個別指導を受け、実習報告書、事後学習関係書類を完成させることができる。 《実習報告書/事後学習関係書類の適宜提出》	成田、高山、鈴木、渡邊、檜垣
36～41	後期	「事後学習」 ・SW 実習で得られた学びを他実習生に報告するとともに、他実習生の報告からさらに理解を深める。 【演習】	「実習報告会」 ・自分自身の学びを実習報告会にて他実習生に報告することができる。 ・他実習生の報告から、ソーシャルワークの在り方について学びを深めることができる。 《感想用紙にて確認》	成田、高山、鈴木、渡邊、檜垣
42～45	通年	「実践現場を知る」 ・自分の関心のある分野の施設にて、一日実習を行い、理解を深める。 【フィールドワーク】	「自主見学実習」 ・自分自身の関心のもと、施設に依頼等を行い、一日実習を行い、学びを深めることができる。 《自主見学実習計画書/報告書にて確認》	成田、高山、鈴木、渡邊、檜垣
成績評価方法		・各計画書/報告書、提出書類の提出状況と内容 ・ソーシャルワーク実習の実施状況および内容 これらを踏まえて総合的に評価する。		
準備学習など		・実習施設で見聞きした自己の体験がすべてではありません。ひとつのミクロ的経験、体験を通じて、それが「他施設ではどうなのか」、「種別としてはどうなのか」、「相談援助としてどうなのか」、というように、メゾ、マクロまで引き上げたり、またミクロに戻して捉えたり、多層性や横断性を意識しながら考えることが大切です。		

学科・年次	社会福祉科（昼間課程）1 学年
科目名	ソーシャルワーク実習（24 日間・8 日間）
担当者	成田暢代 高山久志 檜垣道隆 鈴木雄太 渡邊真梨子
単位数（時間数）	6 単位（240 時間）
学習方法	講義 演習 フィールドワーク 個別指導
教科書・参考書	※必須とはしない [参考]『ソーシャルワークを学ぶ人のための相談援助実習』中央法規出版 『社会福祉士の倫理綱領』および講義時に適宜紹介する

授業概要と目的
社会福祉士の養成過程において「講義科目での知識学習」「演習での模擬的体験」「実践現場における実践的な技術等の体得」というように「講義・演習・実習」が相互に関連し、それらを循環させながら学ぶことが重要である。 本講では、それまでに学んできた「講義」「演習」「実習指導」を踏まえながら、実際に施設および機関等の 2 か所に約 2 か月の間身を置きながら実践を学ぶことを主として展開する。 ねらいは以下の 4 点である。 ◎ ソーシャルワーク実習を通して、現場におけるあらゆる声(利用者、家族、職員など)に直接触れること。 ◎ 相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を自ら試行する。 ◎ 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力について体感を得ながら理解を深める。 ◎ 関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。 上記のねらいをめざして、ソーシャルワーク実習中（および実習前後）は、「ソーシャルワーク実習指導」科目と連動させながら学びを深めていくことが重要となるが、特に「教員による巡回・帰校指導」を通して、実践的な 1 つ 1 つの体験について“学び”として理解できるよう指導していくこととなる。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
24 日間 (180 時間) ・ 8 日間 (60 時間)	実習期間中	①利用者やその関係者（家族・親族、友人等）、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成について理解する。 ②利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との援助関係の形成について理解する。 ③利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握	左記の一般目標についての到達目標は、実習生（種別、実習先特性、実習生特性、実習の進度）によって異なるため、 ≪巡回指導および帰校指導時≫において、 ・実習日誌 ・実習生自身の感想 ・実習指導者の感想 等を参考にして教員が状況を把握し、個別的に到達目標を提示して、個々に沿った指導を実施する。	成田 高山 鈴木 渡邊 檜垣

		握、支援計画の作成と実施及び評価について理解する。 ④利用者やその関係者（家族・親族、友人等）への権利擁護活動とその評価について理解する。 ⑤多職種連携及びチームアプローチについて実践的に理解する。 ⑥当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけについて理解する。 ⑦地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関して理解する。 ⑧施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際（チームマネジメントや人材管理の理解を含む。）について理解する。 ⑨社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任について理解する。 ⑩ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術について実践的に理解する。 ・アウトリーチ ・ネットワークキング ・コーディネート ・ネゴシエーション ・ファシリテーション ・プレゼンテーション ・ソーシャルアクション	
成績評価方法	・ソーシャルワーク実習の実施状況および内容（施設指導者による評価を含む） これらを踏まえて総合的に評価する。		
準備学習など	学び得た経験について、また、疑問や不明な点が浮かんだ際には、担当教員を中心に遠慮なく質問してほしい。 実習で触れたさまざまな経験について、他者との共有や対話を重ねることによって、自分自身のなかに何となく、ぼんやりとでも「ソーシャルワークの道筋」を見出すことが学生時の目標であり、実践者としての出発点となるといえる。		